

秋田県埋蔵文化財センター一年報

41

令和4年度

2023・6

秋田県埋蔵文化財センター

シンボルマークは、北秋田市白坂（しろざか）遺跡出土の
「岩偶」です。

縄文時代晩期初頭、1992年8月発見、高さ7cm、凝灰岩。

序

秋田県埋蔵文化財センターは、県内に所在する埋蔵文化財の調査と研究を目的として昭和56年に設立された公的調査研究機関です。主な業務は、国道、ダム建設等の国や県が行う公共事業に係る遺跡の記録保存を目的とする緊急発掘調査と調査成果を基にした活用事業です。

本書は、令和4年度に秋田県埋蔵文化財センターが実施した事業活動をまとめたものであります。これまで行ってきた埋蔵文化財の緊急発掘調査事業や活用事業は、文化財保護思想の普及・啓発に与してきたものと考えております。

令和4年度の緊急発掘調査事業は、北秋田市1遺跡、秋田市1遺跡、由利本荘市1遺跡、にかほ市1遺跡、大仙市1遺跡、湯沢市2遺跡、東成瀬村1遺跡の合計8遺跡で実施しました。にかほ市のヲフキ遺跡では、玦状耳飾が副葬された縄文時代前期の土坑墓を2基検出しました。複数の遺構から玦状耳飾が出土した事例は、本遺跡が県内初となります。湯沢市の立浪遺跡では、縄文時代前期の捨て場を検出しました。捨て場から土器、石器の他に、磨製石斧の未成品が多く出土しており、磨製石斧の製作地であったことが分かりました。由利本荘市の清水沢遺跡では、寛永通宝6枚を埋納した江戸時代の土坑墓が検出され、六道銭の風習の存在が推定されています。また、10世紀に噴火した十和田火山の火山灰が、鳥海山麓まで飛来したことをはじめて確認できたのも大きな成果となりました。

令和4年度の活用事業は、新型コロナウイルス禍により中止となっていた報告会を4年ぶりに開催しました。それに合わせ、県立図書館において出張展示「あきた遺跡発掘最前線！2022」を開催し、今年度の発掘調査成果を県民に情報発信することが出来ました。この他、企画コーナー展「美郷町所蔵考古資料展—一丈木遺跡とその時代—」の開催やセカンドスクール、出前授業、出張展示等多くの要望に応じてまいりました。

今後とも当センターの関連事業につきましては、より一層の御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和5年6月

秋田県埋蔵文化財センター

所長 磯村 亨

目 次

| | | | |
|-------------------|----|------------------------------|----|
| 第1章 沿革 | 1 | (3) 払田柵跡の歩き方 | 42 |
| 第2章 組織・施設 | | 6 学校利用・研修等 | |
| 第1節 組織 | 2 | (1) セカンドスクールの利用 | 42 |
| 第2節 施設の概要 | 2 | (2) インターンシップ・職場体験 | 43 |
| 第3章 令和4年度のあゆみ | 3 | (3) 博物館実習 | 43 |
| 第4章 事業の概要 | | (4) 教員免許更新講習 | 43 |
| 第1節 発掘調査事業 | | (5) 中堅教員等資質向上研修 | 43 |
| 1 発掘調査一覧 | | 7 貸し出し | |
| (1) 発掘調査 | 9 | (1) 貸し出しキット等 | 44 |
| (2) 確認調査 | 9 | (2) 資料貸し出し | 44 |
| (3) 整理 | 9 | (3) レファレンス | 44 |
| (参考) 教育庁払田柵跡調査事務所 | 10 | 第3節 その他の活動 | |
| (参考) 市町村教育委員会等による | | 1 図書整理・公開 | |
| 発掘調査一覧 | 11 | (1) 全国遺跡報告総覧への公開 | 45 |
| 2 発掘調査概要 | | (2) 秋田県立図書館「デジタルアーカイブ」への一般公開 | 45 |
| (1) 岩坂下遺跡 | 12 | 2 刊行物 | 45 |
| (2) 大巻Ⅰ・Ⅱ遺跡 | 14 | 3 講演・研究論文等 | 47 |
| (3) 小平沢出口遺跡 | 16 | 4 職員研修会 | |
| (4) ヲフキ遺跡 | 18 | (1) 不祥事防止研修 | 48 |
| (5) 立浪遺跡 | 20 | (2) 職員技術研修会 | 48 |
| (6) 大鍋遺跡 | 22 | (3) 職場のメンタルヘルス | 48 |
| (7) 北ノ又沢Ⅲ遺跡 | 24 | (4) 防災・避難訓練、交通安全講話 | 48 |
| (8) 清水沢遺跡 | 26 | (5) 全国公立埋蔵文化財センター | |
| 第2節 活用・普及事業 | | 連絡協議会北海道・東北ブロック | |
| 1 活用・普及事業一覧表 | 28 | ク会議 | 48 |
| 2 遺跡現地見学会 | 29 | (6) 「県内の縄文土器の見方」、「調査 | |
| 3 展示 | | で注意すべきことー遺構編ー」 | 48 |
| (1) 常設展 | 29 | 5 その他相談等対応 | |
| (2) 企画コーナー展 | 29 | (1) 市町村教育委員会への | |
| (3) あきた埋文出張展示 | 30 | 助言・協力 | 49 |
| 4 講演会・講座 | | (2) 県立横手高等学校所蔵資料の | |
| (1) あきた埋文考古学セミナー | 31 | 取り扱い | 49 |
| (2) あきた埋文金曜講座 | 31 | 第5章 運営協議会 | |
| (3) あきた県庁出前講座 | 32 | 1 委員 | 50 |
| (4) 埋蔵文化財発掘調査報告会 | 33 | 2 事務局 | 50 |
| (5) 地域報告会 | 34 | 3 第1回 | 50 |
| (6) 講座の動画配信 | 35 | 4 第2回 | 51 |
| 5 体験教室 | | 職員名簿 | 54 |
| (1) 主な体験メニューと概要 | 36 | | |
| (2) オープンラボ | 37 | | |

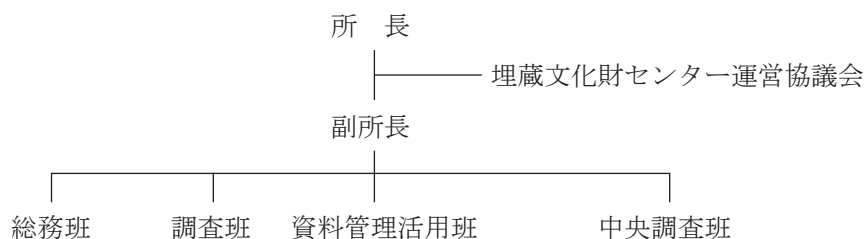
第1章 沿革

| | |
|-------------|---------------------------------------|
| 昭和55年2月 | 秋田県埋蔵文化財センター設立計画公表 |
| 昭和55年10月26日 | 建設工事開始 |
| 昭和56年8月31日 | センター、第1収蔵庫完成 |
| 昭和56年10月1日 | 設置条例施行、職員発令、業務開始 |
| 昭和56年11月2日 | 落成記念式典挙行 |
| 平成5年1月 | 第2収蔵庫完成 |
| 平成10年4月2日 | 鷹巣町（現北秋田市鷹巣）に秋田北分室開設 |
| 平成11年12月20日 | 秋田市に秋田整理室開設 |
| 平成12年4月4日 | 秋田整理室が秋田中央分室となる |
| 平成13年4月2日 | 機構改革により南調査課、北調査課、中央調査課の3課体制となる |
| 平成13年6月20日 | 秋田県甘肅省文化交流事業により交流員の相互交流開始 |
| 平成14年3月2日 | 秋田県埋蔵文化財センター設立20周年記念式典挙行 |
| 平成15年10月17日 | 秋田県甘肅省文化交流事業磨嘴子遺跡合同発掘調査開始 |
| 平成15年10月30日 | センター屋根、外壁、内部大規模改修工事 |
| 平成17年4月1日 | 男鹿市に中央調査課男鹿整理収蔵室開設 |
| 平成20年3月31日 | 北調査課、中央調査課閉課 |
| 平成20年4月1日 | 機構改革により総務班・調査班・資料管理活用班・中央調査班の4班体制となる。 |
| 平成22年7月1日 | 秋田市に中央調査班移転 |
| 平成24年3月6日 | 秋田県埋蔵文化財センター設立30周年記念式典挙行 |
| 平成28年9月4日 | 秋田県埋蔵文化財センター設立35周年記念講演会開催 |
| 令和3年 | 秋田県埋蔵文化財センター設立40周年記念式典 |

*新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とした。

第2章 組織・施設

第1節 組織



第2節 施設の概要

本所（総務班・調査班・資料管理活用班）

所在地 〒014-0802 秋田県大仙市払田字牛嶋20番地

TEL 0187-69-3331 FAX 0187-69-3330

敷地面積 6,962.000㎡

本所建物 鉄筋コンクリート2階建 1,527.304㎡

第1収蔵庫 鉄骨造平屋建 360.000㎡

第2収蔵庫 鉄骨造平屋建 297.680㎡

電気・ポンプ室 平屋建 59.780㎡

中央調査班

所在地 〒010-1621 秋田県秋田市新屋栗田町11-1

TEL 018-893-3901 FAX 018-893-3899

建物 鉄筋コンクリート平屋建 2,141.000㎡

男鹿収蔵庫

所在地 〒010-0502 秋田県男鹿市船川港比喆字餅ヶ沢200

敷地面積 55,521.000㎡

建物 鉄筋コンクリート3階建 7,524.360㎡

第3章 令和4年度のあゆみ

【令和4年度】

- 4月1日 新任式、会計年度任用職員辞令交付式（本所・中央）
企画コーナー展Ⅰ「大仙市所蔵考古資料展－星宮遺跡とその時代－」（～8/28）
- 4月4日 第1回全体職員会
「報告書作成の手引き」改訂委員会①
- 4月6日 第1回連絡会
- 4月11日 男鹿収蔵庫定期点検
- 4月13日 市町村文化財保護行政主管課長会議（生涯学習センター）
「報告書作成の手引き」改訂委員会②
- 4月20日 第2回連絡会
- 4月22日 定期監査（遠隔）
- 4月25日 「報告書作成の手引き」改訂委員会③
- 4月27日 第3回連絡会
- 4月28日 第1回職員会（本所・中央）
第1回考古学セミナー「考古学で語る上新城の原始」（吉川耕太郎）（さとびあ）
参加者13人
- 5月9日 大鍋遺跡表土除去（～5/10）
- 5月16日 立浪遺跡表土除去（～5/20）、清水沢遺跡表土除去（～5/19）
- 5月18日 第4回連絡会
「報告書作成の手引き」改訂委員会④
- 5月23日 小平沢出口遺跡表土除去（～5/27）
- 5月25日 第5回連絡会、団体見学（秋田市ナイスミドルカレッジ 33人）
栗田支援学校合同避難訓練（中央調査班）
- 5月27日 第2回職員会（本所・中央）
- 5月30日 栗田支援学校現場実習（1人、～6/3）（中央調査班）
- 6月1日 大鍋遺跡（～7/15）、清水沢遺跡（～7/28）発掘調査開始
- 6月3日 第1回金曜講座「考古学とその方法」（吉川耕太郎）参加者15人
- 6月5日 秋田考古学協会春期研究会発表（秋田市文化会館）
- 6月7日 小平沢出口遺跡発掘調査開始（～8/10）
- 6月8日 第6回連絡会
- 6月13日 岩坂下遺跡表土除去（～6/15）
- 6月14日 立浪遺跡発掘調査開始（～10/26）
- 6月16日 第1回運営協議会（第1研修室）
県庁出前講座「埋蔵文化財から学ぶ秋田の歴史」（秋田市立中央図書館明德館）
参加者24人
- 6月17日 あきたエコマネジメントシステム内部監査

- 6月21日 第7回連絡会
- 6月22日 第1回史跡鳥海山保存活用計画策定委員会（西目総合支所）
- 6月24日 第3回職員会 職員研修会（不祥事防止 飲酒運転・交通事故）（本所・中央）
出前授業（湯沢翔北高校雄勝校2・3年生22人）
- 6月27日 第1回地域懇話会
- 6月28日 由利本荘市歴史文化拠点施設整備検討委員会分科会（西目総合支所）
- 7月1日 第2回金曜講座「縄文遺跡としての払田柵跡」（森谷康平）参加者21人
出前授業（雄物川小6年生59人）
- 7月4日 岩坂下遺跡発掘調査開始（～8/5）
- 7月5日 第8回連絡会
出前授業（山内小6年生26人）
- 7月9日 第2回考古学セミナー「発掘で明らかとなった秋田市の原始・古代」（生涯学習センター）
（吉川耕太郎）参加者21人
- 7月16日 出張展示①「あきた埋文2022展」（県立図書館、～8/16）
- 7月19日 出前授業（西仙北中1年生36人）
- 7月20日 第9回連絡会
出前授業（西明寺小6年生24人）
- 7月21日 オープンラボ（キッズオアシス）参加者6人
- 7月22日 横手城南高校インターンシップ受入（1人、～7/25）
- 7月24日 オープンラボ（さとびあ）参加者15人
- 7月25日 オープンラボ（秋田市立桜小）参加者21人
- 7月26日 大曲工業高校インターンシップ受入（4人、～7/28）
- 7月27日 オープンラボ（史跡払田柵跡）参加者25人
湯沢市教育委員会体験発掘（立浪遺跡）参加者15人
- 7月28日 団体見学（秋田寿大学33人）
- 7月29日 第4回職員会（本所・中央）
オープンラボ（田沢湖公民館）参加者10人
- 7月30日 体験教室「払田柵跡の歩き方」参加者20人
- 8月1日 角館高校インターンシップ受入（2人、～8/2）
大巻Ⅰ・Ⅱ遺跡表土除去（～8/8）
- 8月2日 オープンラボ（横手市朝倉公民館）参加者16人
- 8月3日 第10回連絡会
- 8月4日 オープンラボ（横手市境町公民館）参加者10人
- 8月5日 第3回金曜講座「秋田県内の『末期古墳』」について」（高橋和成）参加者18人
- 8月8日 大仙市教育委員会初任者研修 参加者21人
- 8月19日 オープンラボ（大綱交流館）参加者11人
- 8月22日 片貝家ノ下遺跡確認調査準備（～8/23）

- 8月23日 オープンラボ（上小阿仁村生涯学習センター）参加者17人
- 8月24日 第11回連絡会
- 8月26日 第5回職員会（本所・中央）
- 8月29日 東北学院大学インターンシップ受入（1人、～8/31）
大巻Ⅰ・Ⅱ遺跡発掘調査開始（～10/24）
- 8月30日 片貝家ノ下遺跡レーダー探査（～8/31）
- 9月2日 体験発掘（立浪遺跡 湯沢翔北高校雄勝校12人）
第4回金曜講座「十和田火山平安噴火について」（林信太郎氏）参加者22人
- 9月4日 県庁出前講座「埋蔵文化財から学ぶ秋田の歴史」（湯沢生涯学習センター）参加者4人
- 9月10日 第3回考古学セミナー「茱萸ノ木遺跡とその時代」（能代市立二ツ井図書館）
（小山美紀）参加者40人
企画コーナー展Ⅱ「美郷町所蔵考古資料展——丈木遺跡とその時代——」（～12/16）
- 9月12日 北ノ又沢Ⅲ遺跡先行調査（～9/16）
- 9月13日 第12回連絡会
- 9月14日 出前授業（横手清陵学院中2年生31人）
消防用設備点検
- 9月16日 第4回考古学セミナー「考古学で語る上新城の古代」（さとびあ）（磯村亨）
参加者18人
- 9月17日 オープンラボ（にかほ市象潟公民館）参加者11人
- 9月20日 北ノ又沢Ⅲ遺跡発掘調査開始（～11/18）
- 9月21日 出前授業（横手清陵学院中2年生31人）
- 9月25日 県庁出前講座「埋蔵文化財から学ぶ秋田の歴史」（由利本荘市文化交流館カダーレ）
参加者15人
- 9月28日 第13回連絡会
- 9月30日 第6回職員会（本所・中央）
- 10月1日 出張展示②「土器に生ける秋の草花展」（県立農業科学館～10/10）
整理作業員辞令交付（本所3人）
- 10月2日 団体見学（下飯島町内28人）
- 10月4日 オープンラボ（さとびあ 山の学校北の風）参加8人
- 10月5日 横手清陵学院中出張展示（～11/3）
- 10月7日 第5回金曜講座「雄物川水運成立の鍵とは何か」（高橋学氏）参加者18人
- 10月8日 県庁出前講座「縄文クラフト講座」（小坂町交流センターセパーム）参加者15人
- 10月11日 秋田公立美術大学フィールドワーク
- 10月12日 第14回連絡会
- 10月13日 インターンシップ（仙北中1年生6人）（～10/14）
- 10月14日 キッズビジネスタウン in AKISHO（秋田商業高校）（～10/15）参加者13人（10/14）
参加者19人（10/15）

- 10月15日 県庁出前講座「縄文クラフト講座」（秋田県ゆとり創造センター「遊学舎」）参加者7人
- 10月18日 出前授業（醍醐小6年生14人）
- 10月22日 第5回考古学セミナー「湯沢市域の縄文時代」（ジオスタ☆ゆざわ）（吉川耕太郎）
参加者27人
- 10月23日 団体見学（岩城少年自然の家24人）
- 10月24日 フフキ遺跡発掘調査開始（～12/9）
- 10月25日 団体見学（大曲商工会議所17人）
- 10月26日 第15回連絡会
出前授業（西明寺小6年生22人 仙北市門屋城跡フィールドワーク）
みんなでクリーンアップ
- 10月27日 東成瀬村教育委員会北ノ又沢Ⅲ遺跡見学
- 10月28日 第7回職員会（本所・中央）
- 10月29日 オープンラボ（県立農業科学館）参加者61人
- 10月31日 福島遺跡確認調査（～11/9）
- 11月2日 電気メーター交換
- 11月4日 第6回金曜講座「異種と供に生きる想像力ー芸術人類学の視点からー」（石倉敏明氏）
参加者19人
- 11月5日 オープンラボ（さとびあ） 参加者9人
- 11月9日 第16回連絡会
- 11月16日 県庁出前講座「埋蔵文化財から学ぶ秋田の歴史」（湯沢勤労青少年ホーム）参加者31人
- 11月21日 整理作業員選考会
地下タンク漏洩検査（PM）
デジタル化リーダー育成研修（仙北地域振興局）
寺沢遺跡確認調査（～12/2）
- 11月22日 第17回連絡会
- 11月24日 永年勤続表彰
- 11月25日 第8回職員会（本所・中央）
- 11月28日 ボイラー清掃（AM）
- 12月1日 団体見学（日吉老人クラブ11人）
整理作業員辞令交付（本所3人）
- 12月2日 第7回金曜講座「払田柵跡の環境整備」（星宮聡仁氏）参加者14人
- 12月3日 県庁出前講座「埋蔵文化財から学ぶ秋田の歴史」（能代市中央公民館）参加者45人
- 12月14日 第18回連絡会
- 12月15日 冬の交通安全講話（中央調査班）
- 12月21日 第19回連絡会
- 12月23日 第2回地域懇話会
- 12月26日 第2回全体職員会、職員研修会「職場のメンタルヘルス」（オンライン）
東北中央病院 主任臨床心理士 古澤あや氏

12月28日 仕事納め・大清掃（本所・中央）

【令和5年】

1月4日 仕事始め（本所・中央）

1月6日 第8回金曜講座「払田柵跡とは何か」（谷地薫）参加者15人

1月11日 第20回連絡会

1月12日 オープンラボ（雄物川コミュニティーセンター）参加者10人

1月13日 県庁出前講座「縄文クラフト講座」（ジオスタ☆ゆざわ）参加者13人

1月14日 企画コーナー展Ⅲ「払田柵跡と古代遺跡」（～3/31）

1月20日 出前授業（湯沢翔北高校雄勝校1年生10人）

1月26日 第21回連絡会

1月27日 第9回職員会（本所・中央）

2月3日 第9回金曜講座「縄文土器－考古学者の道標－」（小松和平）参加者15人

2月9日 第22回連絡会

第2回運営協議会

2月22日 第23回連絡会

所内発掘調査遺跡報告会

2月24日 第10回職員会（本所・中央）

3月3日 出張展示③「あきた遺跡発掘最前線！2022」（県立図書館、～3/14）

3月4日 秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会（生涯学習センター）参加者92人

3月6日 博物館実習（～3/10 本所）

3月8日 第24回連絡会

レプリカ制作研修（県立博物館）

秋田県ジオパーク専門研究統括会（秋田地方総合庁舎）

3月9日 個人情報保護法改正に関する職員説明会（オンライン）

団体見学（仙北史談会14人）

3月10日 消防設備点検（本所）

3月12日 湯沢市内埋蔵文化財発掘調査報告会（湯沢文化会館）参加者137人

3月13日 由利本荘市文化拠点施設検討委員会考古分科会（西目支所）

3月14日 教育庁定期人事異動内示（正午）

3月17日 県庁出前講座「埋蔵文化財から学ぶ秋田の歴史」（保戸野地区コミュニティーセンター）
参加者25人

令和4年度市町村埋蔵文化財担当職員連絡会（生涯学習センター）

3月22日 教育庁定期人事異動発表

第25回連絡会

3月24日 第3回全体職員会

職員研修会「県内の縄文土器の見方」、「調査で注意すべきこと－遺構編－」

3月25日 県庁出前講座「埋蔵文化財から学ぶ秋田の歴史」（稲川生涯学習センター）参加者27人

- 3月28日 県庁出前講座「縄文クラフト講座」(運動学習支援教室ふれんず 秋田南教室)
参加者3人
- 3月30日 退任式・離任式(本所)
- 3月31日 離任式(中央調査班)
退職者辞令交付式(美郷町公民館)

第4章 事業の概要

第1節 発掘調査事業

1 発掘調査一覧

(1) 発掘調査

| No. | 遺跡名 | 事業名等 原因者 | 所在地 調査期間 | 面積 (㎡) | 主な時代：性格 |
|-----|-------------|--|------------------------------|-----------|---------------------------------|
| 1 | 岩坂下遺跡 | 県単道路改築事業一般県道矢 坂糠沢線 県建設部（北秋田地域振興局） | 北秋田市綴子 7/4-8/5 | 550 | 平安：集落跡 近世：散布地 |
| 2 | 大巻Ⅰ・Ⅱ 遺跡 | 雄物川下流激甚災害対策特別 緊急事業（新波地区） 国土交通省（秋田河川国道） | 秋田市雄和新波 8/29-10/24 | 2,720 | 縄文：キャンプ サイト 平安・中世：集 落跡 |
| 3 | 小平沢出口 遺跡 | 雄物川上流河川改修事業 国土交通省（湯沢河川国道） | 大仙市協和峰吉川 6/7-8/10 | 1,050 | 縄文、近世～近 代：散布地 中世：集落跡 |
| 4 | ヲフキ遺跡 | 国道7号遊佐象潟道路事業 国土交通省（秋田河川国道） | にかほ市象潟町大 砂川 10/24-12/9 | 610 | 縄文：集落跡・ 墓域 |
| 5 | 立浪遺跡 | 国道13号横堀道路事業 国土交通省（湯沢河川国道） | 湯沢市下院内 6/14-10/26 | 3,900 | 縄文：集落跡・ 墓域 弥生：墓域 |
| 6 | 大鍋遺跡 | 国道13号真室川雄勝道路事業 国土交通省（湯沢河川国道） | 湯沢市上院内 6/1-7/15 | 850 | 縄文：キャンプ サイト |
| 7 | 北ノ又沢Ⅲ 遺跡 | 成瀬ダム建設事業 国土交通省（成瀬ダム） | 東成瀬村椿川 9/20-11/18 | 1,988 | 縄文・弥生： キャンプサイト |
| 8 | 清水沢遺跡 | 鳥海ダム建設事業 国土交通省（鳥海ダム） | 由利本荘市鳥海町 百宅 6/1-7/28 | 1,895 | 弥生：散布地 近世：墓地 |

(2) 確認調査

| No. | 遺跡名 | 事業名等 原因者 | 所在地 調査期間 | 面積 (㎡) | 主な時代：性格 |
|-----|--------------|--|-----------------------|-----------|------------------|
| 1 | 雄和金ヶ崎 遺跡 | 雄物川下流激甚災害対策特別 緊急事業（種沢地区） 国土交通省（秋田河川国道） | 秋田市雄和種沢 4/18-4/22 | 750 | 縄文：集落跡 古代：散布地 |
| 2 | 福島遺跡 | 交通安全対策事業（通学路対 策） 県建設部（雄勝地域振興局） | 羽後町足田 10/31-11/9 | 5,800 | 縄文：集落跡 古代：散布地 |
| 3 | 寺沢遺跡 | 国道7号遊佐象潟道路事業 国土交通省（秋田河川国道） | にかほ市象潟町 11/21-12/2 | 8,000 | 縄文：集落跡 古代：散布地 |
| 4 | 大川端道ノ上 遺跡 | 雄物川水系直轄河川改修事業 国土交通省（湯沢河川国道） | 大仙市強首 10/17-11/4 | 12,000 | 縄文：集落跡 |
| 5 | 片貝家ノ下 遺跡 | 大館工業団地建設事業 県産業労働部 | 大館市比内町片貝 8/23-9/2 | 16,400 | 平安：集落跡・ 耕作地 |

(3) 整理

| No. | 遺跡名 | 事業名等 原因者 | 所在地 調査年度 | 面積 (㎡) | 主な時代：性格 |
|-----|--------|--------------------------------|----------------------|-----------|---------|
| 1 | 茱萸ノ木遺跡 | 通常砂防工事（オンデの沢） 県建設部（山本地域振興局） | 能代市二ツ井町 令和元・2・3年度 | 8,494 | 縄文：集落跡 |

| | | | | | |
|----|----------|--|--------------------------|--------|-----------------------------|
| 2 | 烏野上岱遺跡 | 一般国道7号能代地区線形改良事業 国土交通省(能代河川国道) | 能代市二ツ井町 令和元・2年度 | 13,300 | 縄文:狩猟場 |
| 3 | 竜毛沢Ⅳ・Ⅴ遺跡 | 一般国道7号能代地区線形改良事業 国土交通省(能代河川国道) | 能代市二ツ井町 令和3年度 | 9,600 | 平安:集落跡 |
| 4 | 久保田城跡 | あきた芸術劇場整備事業 県観光文化スポーツ部 | 秋田市千秋明徳町 平成30・令和元・2年度 | 12,310 | 平安:集落跡 江戸:城館跡 |
| 5 | 才ノ神遺跡 | 河川改修工事(芋川) 県建設部(由利地域振興局) | 由利本荘市徳沢 令和元・2年度 | 2,540 | 旧石器:石器製作跡 縄文:集落跡 |
| 6 | 神田遺跡 | 国道7号遊佐象潟道路事業 国土交通省(秋田河川国道) | にかほ市象潟町 令和2年度 | 5,250 | 縄文:集落跡 |
| 7 | ヲフキ遺跡 | 国道7号遊佐象潟道路事業 国土交通省(秋田河川国道) | にかほ市象潟町 令和3・4年度 | 1,510 | 縄文:集落跡 墓域 |
| 8 | 大南遺跡 | 国道7号遊佐象潟道路事業 国土交通省(秋田河川国道) | にかほ市象潟町 令和3年度 | 2,500 | 縄文~近世:散布地 |
| 9 | 赤塚遺跡 | 国道13号横堀道路事業 国土交通省(湯沢河川国道) | 湯沢市横堀 令和元・3年度 | 6,720 | 縄文:集落跡 |
| 10 | 横堀中屋敷遺跡 | 国道13号横堀道路事業 国土交通省(湯沢河川国道) | 湯沢市小野 令和2・3年度 | 9,050 | 縄文:集落跡 |
| 11 | 北ノ又沢Ⅲ遺跡 | 成瀬ダム建設事業 国土交通省(成瀬ダム) | 東成瀬村椿川 令和3・4年度 | 2,742 | 縄文:キャンプサイト・墓域 弥生:キャンプサイト |
| 12 | 岩坂下遺跡 | 県単道路改築事業一般県道矢坂糠沢線 県建設部(北秋田地域振興局) | 北秋田市綴子 令和4年度 | 550 | 平安:集落跡 近世:散布地 |
| 13 | 大巻Ⅰ・Ⅱ遺跡 | 雄物川下流激甚災害対策特別緊急事業(新波地区) 国土交通省(秋田河川国道) | 秋田市雄和新波 令和4年度 | 2,720 | 縄文:キャンプサイト 平安・中世:集落跡 |
| 14 | 小平沢出口遺跡 | 雄物川上流河川改修事業 国土交通省(湯沢河川国道) | 大仙市協和峰吉川 令和4年度 | 1,050 | 縄文、近世~近代:散布地 中世:集落跡 |
| 15 | 立浪遺跡 | 国道13号横堀道路事業 国土交通省(湯沢河川国道) | 湯沢市下院内 令和4年度 | 3,900 | 縄文:集落跡・墓域 弥生:墓域 |
| 16 | 大鍋遺跡 | 国道13号真室川雄勝道路事業 国土交通省(湯沢河川国道) | 湯沢市上院内 令和4年度 | 850 | 縄文:キャンプサイト |
| 17 | 清水沢遺跡 | 鳥海ダム建設事業 国土交通省(鳥海ダム) | 由利本荘市鳥海町百宅 令和4年度 | 1,895 | 弥生:散布地 近世:墓地 |

(参考) 教育庁払田柵跡調査事務所

| No. | 遺跡名 | 調査目的 | 所在地 調査期間 | 面積 (㎡) | 主な時代:性格 |
|-----|-------------------|--------------------------|----------------------------|-----------|----------|
| 1 | 史跡払田柵跡 (第156次) | 遺構内容確認調査 | 大仙市払田・美郷町本堂城回 6/1-11/18 | 196 | 平安:城柵官衙跡 |
| 2 | 猫袋遺跡 (第3次) | 遺跡内容確認調査 (払田柵跡関連遺跡調査) | 横手市雄物川町今宿 10/31-11/11 | 2 | 奈良:集落跡 |

| | | | | | |
|---|---------|------------------------|--------------------------|----|--------|
| 3 | 十足馬場東遺跡 | 遺跡分布調査 (払田柵跡関連遺跡調査) | 横手市雄物川町造山 10/31-11/11 | 33 | 奈良：集落跡 |
|---|---------|------------------------|--------------------------|----|--------|

(参考) 市町村教育委員会等による発掘調査一覧

| No. | 遺跡名 | 調査機関 調査目的・事業名等 | 所在地 調査期間 | 面積 (㎡) | 主な時代： 性格 |
|-----|-------------------|--------------------------------------|-------------------------|-----------|-------------------------|
| 1 | 大館城跡 | 大館市教育委員会 市庁舎解体 | 大館市字中城 5/10～12/24 | 1,114 | 中世・近世： 城館跡 |
| 2 | 金坂遺跡 | 大館市教育委員会 住宅建設に伴う道路工事 | 大館市字八幡 8/18～9/3 | 62 | 縄文：狩猟場 近世：武家屋敷跡 |
| 3 | 史跡檜山安東氏城館跡（檜山城跡） | 能代市教育委員会 史跡内容確認調査 | 能代市檜山 6/1～9/30 | 420 | 中世：城館跡 |
| 4 | 赤ハゲⅠ遺跡 | 能代市教育委員会 県営ほ場整備事業 | 能代市浅内 5/9～12/19 | 6,400 | 縄文・平安： 集落跡 |
| 5 | 平影野遺跡 | 能代市教育委員会 工事用道路 | 能代市向能代 8/23～9/16 | 900 | 縄文・平安： 集落跡 |
| 6 | 作館跡 | 八峰町教育委員会 送電線工事 | 八峰町峰浜内荒巻 7/11～8/8 | 16 | 縄文・平安・ 中世：城館跡 |
| 7 | 強坂塚遺跡 | 八峰町教育委員会 送電線工事 | 八峰町塙 7/11～8/8 | 12.5 | 平安：散布地 |
| 8 | キハタマ遺跡 | 八峰町教育委員会 送電線工事 | 八峰町八森 7/11～8/8 | 20.24 | 平安：集落跡 |
| 9 | 館ノ下遺跡 (第2次) | 八郎潟町教育委員会 県営ほ場整備事業 | 八郎潟町浦大町 5/30～10/14 | 3,132 | 縄文：集落跡 古代・中世： 散布地 |
| 10 | 史跡秋田城跡 (第117次) | 秋田市立秋田城跡歴史資料館 史跡内容確認調査 | 秋田市寺内焼山 5/1～8/31 | 123 | 奈良・平安： 城柵官衙跡 |
| 11 | 久保田城跡 | 秋田市観光文化スポーツ部 佐竹史料館改築事業 | 秋田市千秋久保田町 5/23～6/30 | 1,413 | 近世：城館跡 |
| 12 | 薬師堂一番堰遺跡 | 由利本荘市教育委員会 本荘東中学校区統合小学校 建設用地造成 | 由利本荘市薬師堂 8/8～10/28 | 3,839 | 平安・中世： 集落跡 |
| 13 | 成沢Ⅱ遺跡 | 東京大学文学部考古学研究室 学術調査 | 大仙市大曲西根 11/1～11/18 | 24 | 縄文：散布地 |
| 14 | 郷土館窯跡 | 横手市教育委員会 赤坂総合公園園路拡幅工事 | 横手市赤坂 4/11～4/28 | 1,350 | 平安：生産遺跡 |
| 15 | 西小泉遺跡 | 横手市教育委員会 県営ほ場整備事業 | 横手市平鹿町浅舞 5/9～8/12 | 2,800 | 縄文：集落跡 平安：集落跡 |
| 16 | 堀田Ⅰ遺跡 | 横手市教育委員会 県営ほ場整備事業 | 横手市平鹿町樽見 5/9～8/12 | 6,500 | 平安：集落跡 中世：集落跡 |
| 17 | 金沢城跡 | 横手市教育委員会 後三年合戦関連遺跡調査事業 | 横手市金沢中野屋 9/1～10/31 | 122 | 平安・中世： 城館跡 |
| 18 | 十足馬場南遺跡 (第3次) | 雄勝城・駅家研究会 学術調査 | 横手市雄物川町造山 9/10～11/13 | 372 | 奈良：集落跡 |

2 発掘調査概要

(1) 岩坂下遺跡

①調査要項

| | |
|--------|-------------------|
| 所在地 | 秋田県北秋田市綴子字深沢地内 |
| 調査期間 | 令和4年7月4日～8月5日 |
| 調査面積 | 550㎡ |
| 遺跡の時代 | 古代、近世 |
| 遺跡の性格 | 集落跡（平安時代）、散布地（近世） |
| 事業関係機関 | 北秋田地域振興局建設部 |
| 調査担当 | 山村剛、宇田川浩一 |

②調査概要

| 検出遺構 | 主な出土遺物 |
|---|-------------|
| 平安時代 竪穴建物跡2棟 | 平安時代 土師器、鉄滓 |
| 時期不明 掘立柱建物跡2棟 柱穴列9条 焼土遺構1基 柱穴様ピット80基 | 近世 陶磁器 |

岩坂下遺跡は、JR奥羽本線糠沢駅の北3kmに位置し、米代川の支流である糠沢川右岸に形成された標高50mの河成段丘上に立地する。遺跡の南西5.2kmには、10世紀前葉の十和田火山泥流による埋没家屋で知られる胡桃館遺跡がある。

調査の結果、平安時代の竪穴建物跡2棟を検出し、11世紀半ばから12世紀半ば頃の集落跡であることを確認できた。竪穴建物跡は、調査区の南北にそれぞれ位置し、北側建物が長辺5.6m、短辺5.2m、南側建物が長辺4.6m、短辺2.0m以上で、いずれも平面形が方形で、後世の掘削により大きく削平されていたことから、確認面から床面までは比較的浅かった。

北側建物は、床面壁際に幅0.06～0.4mの溝が巡り、竪穴壁面に板塀が張り巡らされた建物であったと考えられる。溝が途切れた部分のすぐ近くは、火の影響を強く受けており、この場所にカマドが設置されていたと考えられる。南側建物では、南壁に長さ1.4m、幅0.8mの張り出しを検出した。この張り出し部は、竪穴の出入口の可能性が高い。また、貼床の充填土からは、鉄滓が出土し、集落内で鍛冶関連作業を行っていたと想定される。

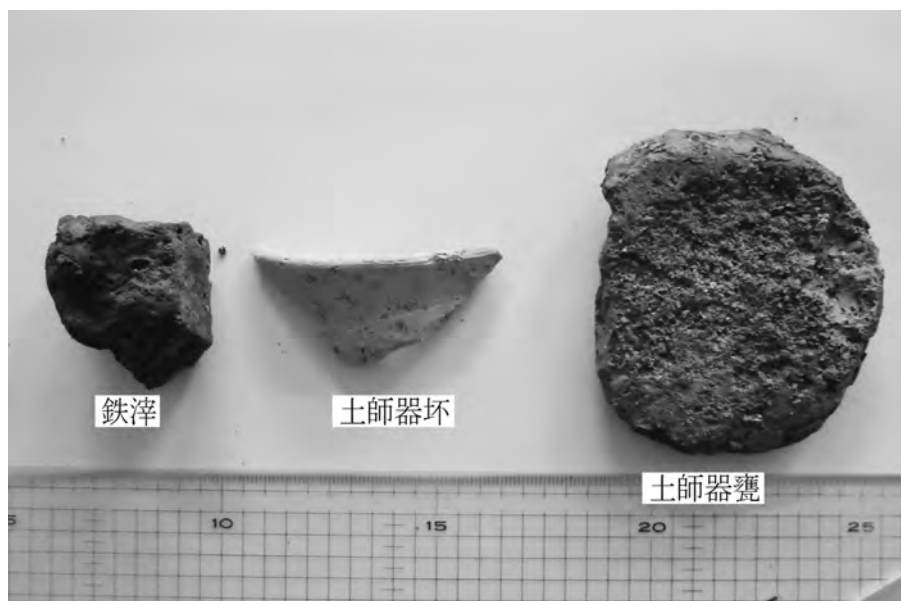
掘立柱建物跡は2棟検出した。うち南側の竪穴建物跡と重複する1棟は、径0.4～0.5m、深さ0.3～0.4mの13基の柱穴からなる3間×3間の建物跡で、柱間の距離が2.0～2.2mとやや広い間尺になっている。



遺跡遠景(北から)



壁溝が巡る竪穴建物跡
(西から)



出土遺物

(2) 大巻Ⅰ・Ⅱ遺跡

①調査要項

| | |
|--------|----------------------------|
| 所在地 | 秋田県秋田市雄和新波字大巻32-2ほか |
| 調査期間 | 令和4年8月29日～10月24日 |
| 調査面積 | 2,720㎡ |
| 遺跡の時代 | 縄文時代、平安時代、中世 |
| 遺跡の性格 | キャンプサイト（縄文時代）、集落跡（平安時代、中世） |
| 事業名 | 雄物川下流激甚災害対策特別緊急事業（新波地区） |
| 事業関係機関 | 国土交通省東北地方整備局秋田河川国道事務所 |
| 調査担当 | 森谷康平、櫻庭悦央 |

②調査概要

| 検出遺構 | 主な出土遺物 |
|-----------------------------------|----------------|
| 縄文時代 土坑1基 石器製作跡4基 | 縄文時代 土器 石器 石製品 |
| 平安時代 土坑1基 | 平安時代 土師器、須恵器 |
| 中世 カマド状遺構1基 性格不明遺構2基 柱穴様ピット21基 | 中世 陶器 |

大巻Ⅰ・Ⅱ遺跡は、秋田空港から南に8.8km、秋田自動車道西仙北SAから西に7kmの地点に位置し、大きく蛇行する雄物川によって形成された舌状台地上に立地している。

調査の結果、縄文時代前期の石器製作跡、中世のカマド状遺構などが検出され、縄文から中世の複合遺跡であることが分かった。

石器製作跡は4基検出され、うち1基では、未完成の石篋の周辺に細かく薄い剥片が散らばって出土しており、最後の仕上げの最中に何らかの理由で製作を中断し、残置したものと考えられる。また、別の場所では、大小様々な剥片が直径0.5m程度の範囲から集中して出土し、石器の素材となる剥片を残置もしくは廃棄したと考えられる。遺構の周囲からは、石鏃・石匙・異形石器などの様々な石器が出土し、石器製作が盛んだったことが窺える。また、これらの石器や剥片と共伴して大木2式に帰属する深鉢形土器も出土した。

調査区東部では、段丘頂部から北東方向へ落ち込む包含層が検出された。石器製作跡などの遺構は段丘頂部の平場に分布し、建物等居住施設から離れた作業場と想定できる。

カマド状遺構は、使用用途が明確でない屋外燃焼施設を指し、煮炊き・燻製・鍛冶場などの用途が想定される。遺構の大半が調査区外へ続くため全体形は判然としない。

本遺跡は、次年度以降も継続して調査を実施する予定である。

石器製作跡
(北から)



異形石器出土状況
(北から)



カマド状遺構土層断面
(北西から)



(3) 小平沢出口遺跡

①調査要項

| | |
|--------|-----------------------|
| 所在地 | 秋田県大仙市協和峰吉川字小平沢出口地内 |
| 調査期間 | 令和4年6月7日～8月10日 |
| 調査面積 | 1,050㎡ |
| 遺跡の時代 | 縄文時代、中世、近世～近代 |
| 遺跡の性格 | 集落跡（中世）、散布地（縄文、近世～近代） |
| 事業名 | 雄物川河川激甚災害対策特別緊急事業 |
| 事業関係機関 | 国土交通省東北地方整備局湯沢河川国道事務所 |
| 調査担当 | 赤星純平、小山美紀 |

②調査概要

| 検出遺構 | | 主な出土遺物 | |
|-------|------------------------|--------|--------|
| 縄文時代 | 土坑5基 | 縄文時代 | 土器 |
| 中世 | カマド状遺構10基、焼土遺構4基、井戸跡2基 | | 石器、石製品 |
| 近世～近代 | 掘立柱建物跡1棟、柱列1条、柱穴様ピット | 中世 | 陶器 |
| | | 近世～近代 | 陶磁器 |

小平沢出口遺跡は、JR奥羽本線峰吉川駅から南西0.4kmに位置し、雄物川右岸の河岸段丘上に立地する。遺跡の西側約0.5kmには、縄文時代前期の半仙遺跡、雄物川を挟んだ対岸には縄文時代の窪遺跡や大巻遺跡、中世の集落跡である峰吉川中村遺跡等が所在する。

調査の結果、中世のカマド状遺構、焼土遺構、井戸跡が検出され、当時の集落跡であることを確認できた。

一般的なカマド状遺構は、焚口部、燃焼部、煙道部からなり、地面を掘った窪みを利用して粘土で天井を造り、上部に調理器具を置き、煮炊き等に使用されたと考えられている。今回の調査で見つかったカマド状遺構は、北ないし東向きに構築されたものが多い。調査区西側の井戸跡1基は、直径0.89m、深さ0.82mで、13世紀前半に生産された大仙市南外窯跡群産の陶器片が出土した。人為的に埋め戻す過程で混入したものとみられる。多数のカマド状遺構や井戸跡が検出された一方、中世に属する明確な建物の痕跡が見つからなかったことから、この場所は共同作業場のような使われ方をしていたと考えたい。

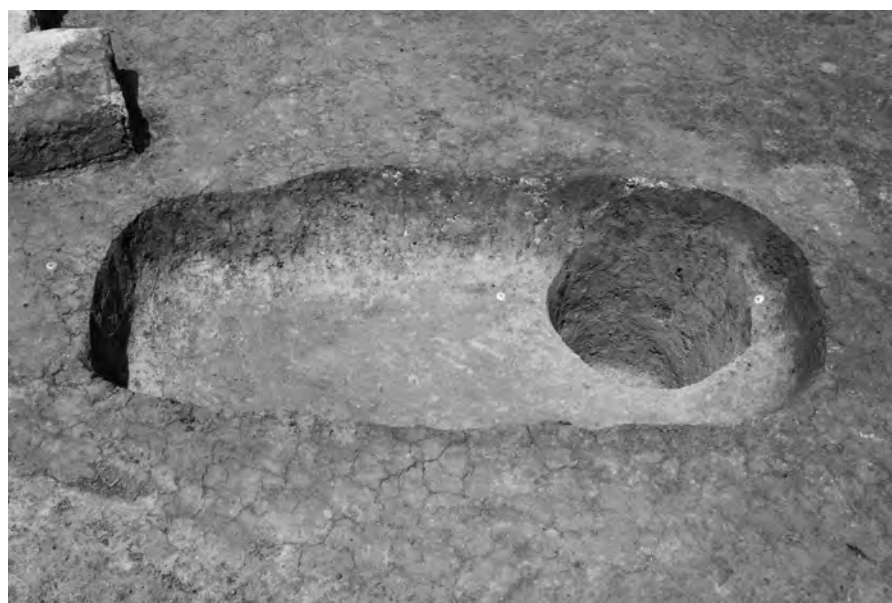
また、調査区中央に位置する長軸1.66m、短軸0.74mの楕円形を呈し、深さが0.28mの土坑は、人為的に一括して埋め戻され、周辺から縄文時代晩期の土器のほか、磨製石斧や石匙などの石器も出土していることから墓である可能性が高い。

今後は、カマド状遺構から採取した炭化物について年代測定等の分析を進め、新旧関係や年代による構築方向、軸方向の違いの有無を明らかにし、小平沢出口遺跡の人々の活動の様子を時代毎に復元していきたい。

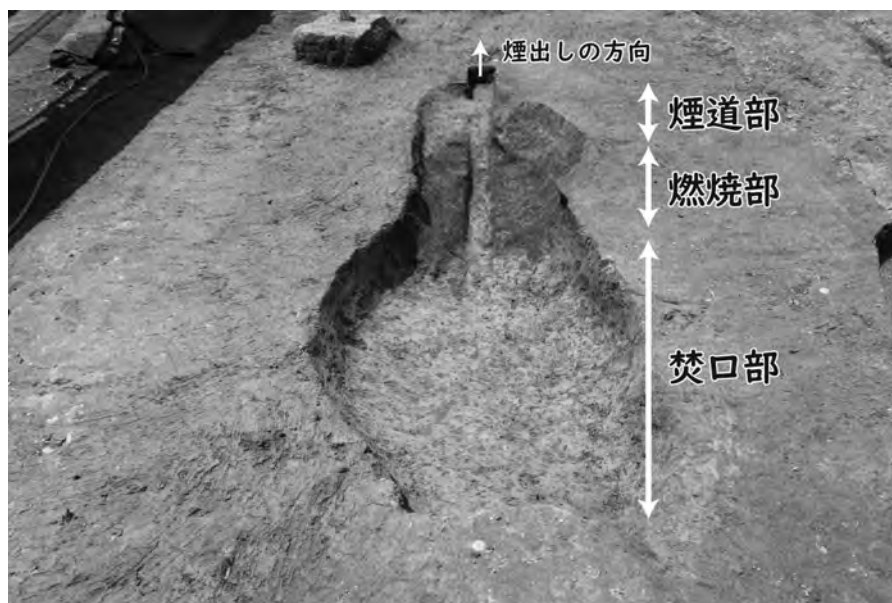
調査区全景
(上空から)



縄文時代の土坑
(右側の深い穴は
最近のもの)
(東から)



カマド状遺構
(東から)



(4) ヲフキ遺跡

①調査要項

| | |
|--------|-----------------------|
| 所在地 | 秋田県にかほ市象潟町大砂川字山屋57ほか |
| 調査期間 | 令和4年10月24日～12月9日 |
| 調査面積 | 610㎡ |
| 遺跡の時代 | 縄文時代 |
| 遺跡の性格 | 集落跡、墓域 |
| 事業名 | 国道7号遊佐象潟道路事業 |
| 事業関係機関 | 国土交通省東北地方整備局秋田河川国道事務所 |
| 調査担当 | 結城智、大上立朗 |

②調査概要

| 検出遺構 | 主な出土遺物 |
|------------------------|-------------------|
| 縄文時代 土坑9基 柱穴様ピット11基 | 縄文時代 土器 石器 石製品 |

ヲフキ遺跡は、JR羽越本線上浜駅から南東約1kmに位置し、鳥海山麓の北西裾部、標高31m前後の丘陵西斜面上に立地する。遺跡の南側800mには川袋川が西流し、日本海へと注いでいる。

本遺跡はこれまで4次にわたる発掘調査が行われ、縄文時代前期から晩期、平安時代、中世、近世にかけ断続的に集落が営まれていたことが分かっている。特に縄文時代の遺物が多く、土器・石器の他、土偶等の土製品、石棒や石剣、装飾品等の石製品、骨角器等、豊富な種類があり、県沿岸南部を代表する縄文時代の遺跡として知られている。今回の発掘調査地は、遺跡の北端にあたり、第一次調査区及び第三次調査V区の北東側、第四次調査区の北側に当たる。

調査の結果、調査区の北側で縄文時代の土坑が6基検出され、そのうちのSK03とSK13から副葬品と考えられる珧状耳飾が出土した。SK03は平面形が長軸1.1m、短軸0.72mの楕円形を呈し、深さは0.15mを測り、南西側壁際から珧状耳飾が2つ（完形品と折損品）並んで出土している。SK13は、長軸1.13m、短軸0.8mの楕円形を呈し、深さは0.19mを測り、東側壁際から珧状耳飾が2つ、いずれも折損した状態で並んで出土した。完形品以外の3つにはいずれも補修孔があり、折損後も紐で繋いで使用していたと見られる。これらの土坑群が作られた時期は、出土した土器の年代から縄文時代前期と考えられる。石器には石鏃・石匙等の剥片石器、凹石・敲石等の礫石器がある。

過去の調査においても、副葬品を伴う土坑や土器埋設遺構が検出されていることから、ヲフキ遺跡の北端では縄文時代の祭祀域、墓域が形成されていたと推測される。なお、土坑から珧状耳飾が2つセットで見つかるのは秋田県内では例がなく、縄文時代の葬送のあり方を考える上で非常に重要である。

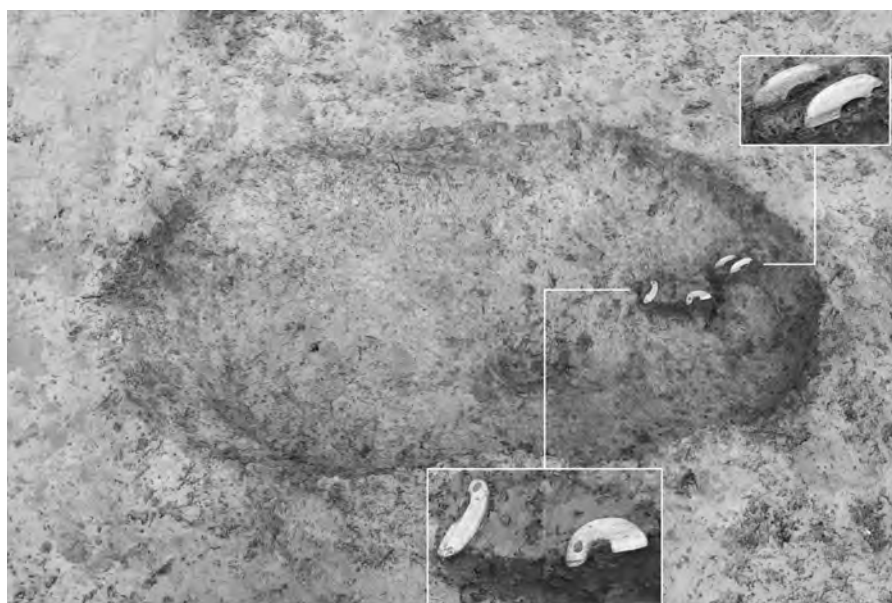
ヲフキ遺跡全景
(北西から)



玦状耳飾出土状況
SK03 (北西から)



玦状耳飾出土状況
SK13 (南西から)



(5) 立浪遺跡

①調査要項

| | |
|--------|-------------------------|
| 所在地 | 秋田県湯沢市下院内字立浪42外 |
| 調査機関 | 令和4年6月14日～10月26日 |
| 調査面積 | 3,900㎡ |
| 遺跡の時代 | 縄文時代、弥生時代 |
| 遺跡の性格 | 集落跡（縄文時代）、墓域（縄文時代、弥生時代） |
| 事業名 | 国道13号横堀道路建設事業 |
| 事業関係機関 | 国土交通省東北地方整備局湯沢河川国道事務所 |
| 調査担当 | 小松和平、鈴木裕、結城智 |

②調査概要

| 検出遺構 | 主な出土遺物 |
|--|---|
| 縄文時代 竪穴建物跡2棟 土坑19基 フラスコ状土坑1基 性格不明遺構1基 | 縄文時代 土器 石器（石匙、石槍、石筥、 石鏃、石錐、磨製石斧等） |
| 弥生時代 土坑1基 | 土製品、石製品 |
| 時期不明 溝跡1基 性格不明遺構1基 柱穴様ピット69基 | 弥生時代 土器、石器 |

立浪遺跡は、JR奥羽本線院内駅から東1.4kmに位置し、烏帽子山地の北東端に立地する。調査地は、南から北へ下る細尾根とその西側斜面であり、遺跡内の標高は167～182mである。

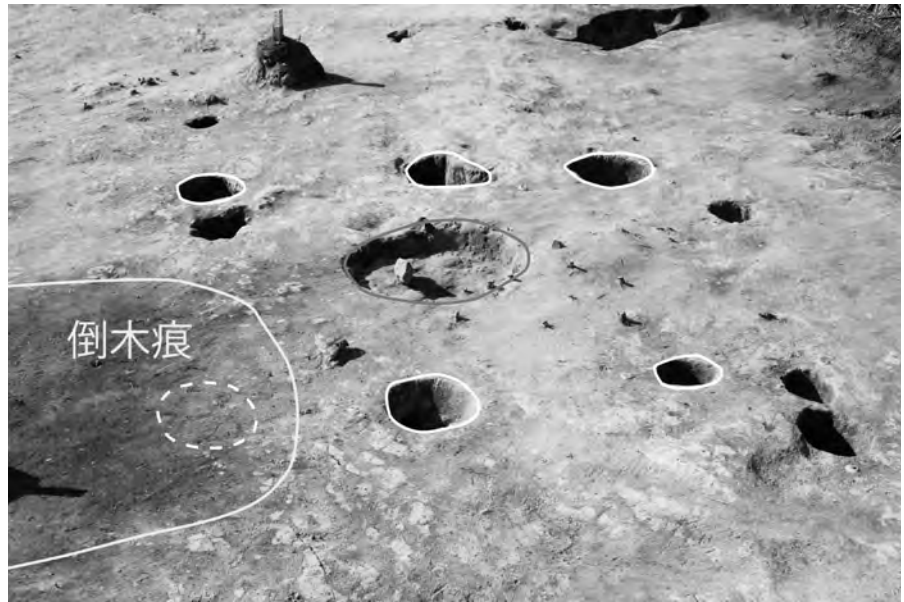
調査の結果、竪穴建物跡、土坑、フラスコ状土坑、溝跡、性格不明遺構の他、柱穴様ピットが多数検出された。

遺構のほとんどは尾根の頂部に集中しており、尾根部南側からは竪穴建物跡が検出された。林道による削平や倒木痕による攪乱によって残存状況は悪いが、柱の位置から炉が6本の柱に囲まれた住居であったと考えられる。

尾根中央部では複数の土坑と多数の柱穴様ピットが検出された。その中には弥生土器と炭化トチノミ・クルミが出土した土坑もある。弥生土器と炭化種実が共伴して土坑から出土することは珍しく、今後各種実の種類や法量等を分析し、当時の食性を検討していく。

尾根北側では直径1m、深さ1mの土坑が検出された。底面の中心からは副葬品と考えられる縄文時代晩期末葉の大洞A'式の鉢型土器と石皿が出土したため、土坑墓であったと考えられる。

調査区の斜面からは土器・石器が多量に出土した。土器のほとんどが縄文時代前期の大木2b～3式に属するため、石器も同様の時期に帰属すると考えられる。残核や剥片類、さらに未製品の出土から、石鏃や石匙等の剥片石器類や磨製石斧等を本遺跡で製作していたと考えられる。西側に位置する白館跡の調査でも縄文時代前期の磨製石斧の未製品が44点出土しており、双方の比較検討を行い、当時の石器製作における石材選択等の特徴を明らかにしていきたい。



尾根南側竪穴建物跡
(南から)



弥生土器・炭化種実
出土状況



尾根北側土坑墓
(南から)

(6) 大鍋遺跡

①調査要項

| | |
|--------|-----------------------|
| 所在地 | 秋田県湯沢市上院内字矢込沢国有林 |
| 調査期間 | 令和4年6月1日～7月15日 |
| 調査面積 | 850㎡ |
| 遺跡の時代 | 縄文時代 |
| 遺跡の性格 | キャンプサイト |
| 事業名 | 国道13号真室川雄勝道路事業 |
| 事業関係機関 | 国土交通省東北地方整備局湯沢河川国道事務所 |
| 調査担当 | 大上立朗、結城智 |

②調査概要

| 検出遺構 | 主な出土遺物 |
|-------------------------------|------------|
| 縄文時代 竪穴状遺構1基 土坑2基 性格不明遺構3基 | 縄文時代 土器、石器 |

大鍋遺跡は、JR奥羽本線院内駅から南西3.5kmに位置し、雄勝川上流部の右岸の緩斜面地に立地する。雄勝川下流には、岩井堂洞窟、臼館跡、立浪遺跡など主に縄文時代の遺跡が多く所在する。

調査の結果、竪穴状遺構、土坑が検出され、縄文時代後期の土器、石器が出土した。

竪穴状遺構は、床面の中央からやや東側に地床炉があり、その周辺から剥片が数点出土した。出土遺物が少なく、柱穴も検出されなかったことから、一時的に利用された簡易的なものであったと考えられる。

竪穴状遺構と土坑の覆土上層には後世の火山灰も堆積していた。

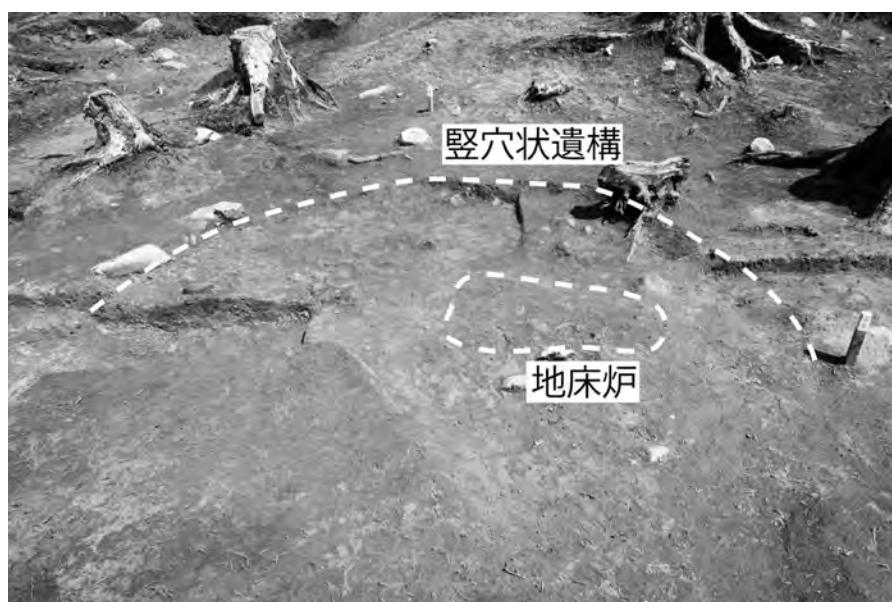
出土した石器のほとんどは剥片だが、石鏃も1点見つかり、大鍋遺跡を残した人々の活動を考える上で重要な資料となる。

出土した土器は、縄文時代後期前葉の南境式に類似する文様構成となる個体が多く、東北地方中南部からの影響がうかがえる。また、土器内面に黒色物が付着した個体も確認される。今後の理化学分析によって、その成分の特定が期待される。

大鍋遺跡全景
(西から)



SKI04完掘状況
(南から)



SKP11土器出土状況
(北から)



(7) 北ノ又沢Ⅲ遺跡

①調査要項

| | |
|--------|-----------------------|
| 所在地 | 秋田県雄勝郡東成瀬村椿川北ノ又沢国有林地内 |
| 調査期間 | 令和4年9月20日～11月18日 |
| 調査面積 | 1,988㎡ |
| 遺跡の時代 | 縄文時代、弥生時代 |
| 遺跡の性格 | キャンプサイト |
| 事業名 | 成瀬ダム建設事業 |
| 事業関係機関 | 国土交通省東北地方整備局成瀬ダム工事事務所 |
| 調査担当 | 赤上秀人、高橋和成 |

②調査概要

| | 検出遺構 | 主な出土遺物 |
|------|------------------------|-----------------------------|
| 縄文時代 | 土坑10基 配石遺構1基 焼土遺構1基 | 縄文時代 土器 石器（石匙・石篋・磨石・石皿等） |
| 時期不明 | 性格不明遺構3基 | 弥生時代 土器 |

北ノ又沢Ⅲ遺跡は、東成瀬村の中心部である田子内地区から南東18kmに位置し、成瀬川支流の北ノ又沢右岸、標高約470mの段丘上に立地する。沢伝いに西へ0.3km下った場所には、平成27、28年度に発掘調査が行われ、縄文時代早期から古代に至る遺構、遺物が見つかったトクラ遺跡が所在する。

本遺跡の発掘調査は、令和3、4年度の2か年にわたり実施された。なお、令和3年度の調査では、縄文時代中期後半～後期の配石遺構や土坑等を検出している。

調査区中央部やや西側では焼土遺構、配石遺構、土坑を検出した。大小の礫を円形に配置した配石遺構については、周辺から前期の遺物が多く出土していることから、昨年度まとまって見つかった調査区西側の4基よりも古い時期の可能性が高い。

昨年度の調査で検出した火山灰の範囲を掘り下げたところ、断面形がすり鉢状の土坑を6基検出した。平面形が径0.7～1.2mの円形ないし略円形を呈し、深さが0.3～0.6mを測り、確認面は大木1式土器を含む層よりも下位である。埋土から貝殻腹縁文土器が出土しており、縄文時代早期の遺構と考えられる。

本遺跡は縄文時代早期から後期、弥生時代にかけて断続的に利用された場所であることが明らかとなった。また、縄文時代後期頃には墓域と推定されるエリアも存在する。遺跡の立地条件をはじめ、遺構、遺物の時期や特徴は、近接するトクラ遺跡と共通点が多い。今後、両遺跡について比較検討をしていくとともに、出土した遺物の整理、分析を進め、縄文時代早期にはじまる成瀬川上流域における人々の生活の実態を解明していきたい。



遺跡上空写真
(南から)



縄文時代早期の遺構
(東から)



縄文土器出土状況
(南から)

(8) 清水沢遺跡

①調査要項

| | |
|--------|--------------------------|
| 所在地 | 秋田県由利本荘市鳥海町百宅字清水沢37、38番地 |
| 調査期間 | 令和4年6月1日～7月28日 |
| 調査面積 | 1,895㎡ |
| 遺跡の時代 | 弥生時代、近世 |
| 遺跡の性格 | 散布地（弥生時代）、墓地（近世） |
| 事業名 | 鳥海ダム建設事業 |
| 事業関係機関 | 国土交通省東北地方整備局鳥海ダム工事事務所 |
| 調査担当 | 高橋和成、赤上秀人 |

②調査概要

| 検出遺構 | 主な出土遺物 |
|-------------|----------------------------|
| 江戸時代 土坑墓7基 | 弥生時代 土器、石器 |
| 土坑11基 | 江戸時代 金属製品、漆製品、銭貨、陶磁器、土師質土器 |
| 時期不明 焼土遺構1基 | 時期不明 砥石 |

清水沢遺跡は、県指定名勝である法体の滝から北に約1.4km、鳥海ダムの建設地である百宅地区に位置し、子吉川とその支流である百宅川の合流地点近くの左岸側、標高約390mに立地する。地形は低地（谷底平野）に分類される百宅川の氾濫原である。

本調査に先立ち、令和2年度に遺跡南側の立会調査が行われ、江戸時代の土坑墓が見つかった。今年度の発掘調査でもそれに隣接した調査区中央部南側で土坑墓や土坑などが検出され、江戸時代の墓域の広がりを確認することができた。土坑墓には長さ1.5m以上で平面形が楕円形のもの、径0.5m前後で円形に近いものがある。SK19土坑墓は長さ2.3m、幅0.8m、深さ0.9mと大型で、中からは骨片の他、寛永通宝、青銅製の煙管、鉄製の鋏などの副葬品が出土した。寛永通宝は6枚あり、当時のこの地域にも六道銭の風習があったことが推測される。骨片と炭化物が出土した小型の土坑墓は、火葬した遺骨を埋納した可能性がある。

江戸時代の遺構確認面より下位の層では、10世紀に噴火した十和田火山の火山灰が検出された。火山灰は厚い所で8cm程堆積しており、下位ほど粒子が大きくなっていることから、一次堆積の可能性が高い。鳥海山付近で十和田火山の火山灰の飛来が確認されたのは初めてである。

火山灰層より下位の層からは、弥生時代の土器が出土した。弥生時代の遺構は確認できなかったことから、土器片は河川の氾濫などで土砂とともにこの場所へ流れ着いたものと考えられる。しかし、土器の表面には煮炊きによる吹きこぼれが炭化して厚く付着しており、百宅川上流のどこかに集落があったことが推測される。

今回の調査で、百宅地区における江戸時代の墓域と葬送の一部を明らかにすることができた。また、平安時代の十和田火山の火山灰や弥生土器の出土など、今後のこの地域での調査にとって有益な情報を得られたことも大きな成果といえる。

清水沢遺跡全景
(西から)



SK19土坑墓
副葬品出土状況
(東から)



弥生土器出土状況
(東から)



第2節 活用・普及事業

1 活用・普及事業一覧表

事業名は簡略化

| | 事業名 | 主な内容 | 開催時期など | 対象 |
|--------|------------------------|-------------------------|------------------|-------|
| 見学 | 遺跡現地見学会 | 遺跡の発掘現地において調査成果を県民に公開 | *本年度なし | 一般 |
| 展示 | 企画展コーナー展 | 大仙市所蔵考古資料展－星宮遺跡とその時代－ | 4/ 1～ 8/28 | 一般 |
| | | 美郷町所蔵考古資料展－一丈木遺跡とその時代－ | 9/10～12/16 | 一般 |
| | | 払田柵跡と古代遺跡 | 1/14～ 3/31 | 一般 |
| | あきた埋文 出張展示 | あきた埋文2022展 | 7/16～ 8/16 | 一般 |
| | | 土器に生ける秋の草花展 | 10/ 1～10/10 | 一般 |
| | | あきた遺跡発掘最前線！2022 | 3/ 3～ 3/14 | 一般 |
| | 横手周辺の縄文時代 | 10/ 5～11/ 3 | 中/高/一般 | |
| 講演会・講座 | あきた埋文 考古学セミナー | 考古学で語る上新城の原始 | 4/28 | 一般 |
| | | 発掘で明らかとなった秋田市の原始・古代 | 7/ 9 | 一般 |
| | | 茱萸ノ木遺跡とその時代 | 9/10 | 一般 |
| | | 考古学で語る上新城の古代 | 9/16 | 一般 |
| | | 湯沢市域の縄文時代 | 10/22 | 一般 |
| | あきた埋文 金曜講座 | 考古学とその方法 | 6/ 3 | 一般 |
| | | 縄文遺跡としての払田柵跡 | 7/ 1 | 一般 |
| | | 秋田県内の『末期古墳』について | 8/ 5 | 一般 |
| | | 十和田火山平安噴火について | 9/ 2 | 一般 |
| | | 雄物川水運成立の鍵とは何か | 10/ 7 | 一般 |
| | | 異種と共に生きる想像力ー芸術人類学の視点からー | 11/ 4 | 一般 |
| | | 払田柵跡の環境整備 | 12/ 2 | 一般 |
| | 払田柵跡とは何か | 1/ 6 | 一般 | |
| | 縄文土器ー考古学者の道標ー | 2/ 3 | 一般 | |
| | 発掘調査報告会 | 今年度の県内発掘調査成果報告 | 3/ 4 | 一般 |
| 地域報告会 | 発掘調査が行われた地域の方々に調査成果を紹介 | 3/12 | 一般 | |
| 県庁出前講座 | 発掘調査成果の講座等 | 通年 | 一般 | |
| 体験教室 | オープンラボ | さとびあ体験教室 縄文土器づくり | 7/24 | 小/親子 |
| | | 払田柵跡ふるさと体験ワークショップ | 7/27 | 小/親子 |
| | | さとびあ体験教室 縄文デイキャンプ | 10/ 4 | 一般 |
| | | 農業科学館オータムフラワーフェスタ | 10/29 | 小～一般 |
| | | さとびあ体験教室 石器づくり | 11/ 5 | 小/親子 |
| | | 各種体験教室 | 通年 | 小～一般 |
| 払田柵跡関連 | 払田柵跡の歩き方 | 7/30 | 小/親子 | |
| 学校・研修等 | セカンドスクールの利用 | センター内・出土品見学、体験学習、出前授業等 | 通年 | 小/中/高 |
| | インターンシップ 職場体験 | 出土品整理作業や普及活用事業等の職場体験 | 通年 | 中/高/大 |
| | 博物館実習 | 考古資料の取り扱い、展示等 | 3/ 6～ 3/10 予定 | 大 |
| | 教員免許更新講習 | 施設・出土品見学 | *対応終了 | 教員 |
| | 中堅教員等資質向上研修 | 施設・出土品見学、出土品整理作業体験等 | *本年度なし | 教員 |
| 貸出 | 貸し出しキット等 | 体験キット、映像資料等の貸し出し | 通年 | 学校等 |
| | 資料貸し出し | 収蔵資料の貸し出し、掲載許可 | 通年 | 一般 |
| | レファレンス | 県内の埋蔵文化財等に関する質問受付 | 通年 | 一般 |

2 遺跡現地見学会

安全が確保された遺跡において発掘調査中の適切なタイミングで現地見学会を実施し、現地において遺跡の発掘調査成果を県民に公開する。

各遺跡共に人を集めることが可能な条件が折り合わず、新型コロナウイルス感染症もおさまる気配が見られないことから、安全のため実施を見送った。

3 展示

(1) 常設展

| | 開館時間 | 見学可能箇所（※は職員の案内によって可能） |
|--------|------------|--------------------------------|
| 平日 | 9:00～16:00 | 特別展示室・第1収蔵庫（※）・整理室（※）・中央調査班展示室 |
| 土・日・祝日 | 9:00～16:00 | 特別展示室 |

（休館日：1月1～3日、成人の日、建国記念の日、春分の日、12月28日～31日）

当センターの収蔵資料を中心に、時代ごとに特徴的な資料を展示した。

旧石器時代から江戸時代まで、これまでに発掘調査した約500か所の遺跡から50遺跡を厳選して紹介。また、「あきた埋文、ただいま研究中！」のコーナーを設け、職員の研究成果を公開した。

(2) 企画コーナー展

特別展示室の4分の1のスペースを利用してテーマ展示を実施。

| |
|--|
| テーマⅠ：『大仙市所蔵考古資料展－星宮遺跡とその時代－』 |
| 期間：令和4年4月1日（金）～令和4年8月28日（日） 来場者：604人 |
| テーマⅡ：『美郷町所蔵考古資料展－一丈木遺跡とその時代－』 |
| 期間：令和4年9月10日（土）～令和4年12月16日（金） 来場者：474人 |
| テーマⅢ：『払田柵跡と古代遺跡』 |
| 期間：令和5年1月14日（土）～令和5年3月31日（金） 来場者：118人 |

大仙市で所蔵する星宮遺跡・上ノ山Ⅱ遺跡の出土品を紹介する「大仙市所蔵考古資料展」、美郷町で所蔵する一丈木遺跡と周辺遺跡の出土品を紹介する「美郷町所蔵考古資料展」、国指定史跡払田柵と周辺の古代遺跡の出土品を紹介する「払田柵跡と古代遺跡」を開催した。



テーマⅢ展示状況

(3) あきた埋文出張展示

埋蔵文化財センター以外の会場で当センター収蔵資料やその地域の埋蔵文化財に関する最新情報などを展示し、地域の歴史や文化、埋蔵文化財に対する理解を深めた。

『あきた埋文2022展』

期間：令和4年7月16日（土）～8月16日（火）

会場：秋田県立図書館 来場者：3,971人

埋蔵文化財センターで発掘調査した近年の成果を紹介。遮光器土偶立像も昨年と同様に展示し、立像前で記念写真を撮るなど夏休み中の親子を中心に人気を博した。



展示状況

『土器に生ける秋の草花展』

期間：令和4年10月1日（土）～10月10日（月）

会場：秋田県立農業科学館ホワイエ 来場者：1,049人

農業科学館との連携事業として、農業科学館のボランティアの方々により、センターで所蔵する土器に秋を感じさせる草花を生けて展示した。今年度は縄文時代から古代までの遺跡から、池内遺跡（大館市）、狼穴Ⅱ遺跡（大館市）、上熊ノ沢遺跡（にかほ市）、ヲフキ遺跡（にかほ市）、松木台Ⅲ遺跡（秋田市）、堀ノ内遺跡（湯沢市）、藤株遺跡（北秋田市）、虫内Ⅰ・Ⅲ遺跡（横手市）、館の上遺跡（三種町）、富ヶ沢C遺跡（横手市）、沖田遺跡（大仙市）の出土土器を使用した。来場者からは、土器と草花の美しいアレンジとその見せ方に好評をいただいた。



展示状況

『あきた遺跡発掘最前線！2022』

期間：令和5年3月3日（金）～3月14日（火）

会場：秋田県立図書館 来場者：1,944人

秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会にあわせ、秋田県教育委員会及び市町村教育委員会、民間団体により今年度発掘調査された遺跡の出土品を展示公開した。従来は報告会当日のみの展示であったが、昨年度と同様により多くの方に調査状況や埋蔵文化財に対する理解を深めてもらうため、報告会前後の期間に設定した。準備や運営にあたり、県立図書館や各市町村及び民間の調査機関に協力をいただいた。



展示状況

『横手清陵学院中学校出張展示』

期間：令和4年10月5日（水）～11月3日（木）

会場：秋田県立横手清陵学院中学校探求ルーム

来場者：1,036人



展示状況

秋田県立横手清陵学院中学校内にある探求ルームにて埋蔵文化財センターがこれまでに行った横手市域の遺跡発掘調査で出土した資料を展示した。当会場での展示は初の試みであったが、文化祭で生徒の作品と一緒に展示するなど、好評であった。

4 講演会・講座

(1) あきた埋文考古学セミナー

本県の埋蔵文化財への理解を深めるためのセミナーを開催した。実施したセミナーは次のとおりである。

- | |
|--|
| ①「考古学で語る上新城の原始」 開催日：令和4年4月28日（木） 会場：秋田市農山村地域活性化センター 参加者：13人 講師：吉川耕太郎（資料管理活用班副主幹） |
| ②「発掘で明らかとなった秋田市の原始古代」 開催日：令和4年7月9日（土） 会場：県生涯学習センター 参加者：21人 講師：吉川耕太郎（資料管理活用班副主幹） |
| ③「茱萸ノ木遺跡とその時代」 開催日：令和4年9月10日（土） 会場：能代市立二ツ井図書館 参加者：40人 講師：小山美紀（調査班文化財主事） |
| ④「考古学で語る上新城の古代」 開催日：令和4年9月16日（金） 会場：秋田市農山村地域活性化センター 参加者：18人 講師：磯村亨（所長） |
| ⑤「湯沢市域の縄文時代」 開催日：令和4年10月22日（土） 会場：湯沢市郷土学習資料展示施設 参加者：27人 講師：吉川耕太郎（資料管理活用班副主幹） |

(2) あきた埋文金曜講座

本県の埋蔵文化財への理解を深めるために考古学や歴史学、民俗学などを題材に学ぶ。本年度は、埋蔵文化財センター第1研修室を会場に6月から2月にかけて毎月第1金曜日に開催した。

- | |
|---|
| ①「考古学とその方法」 開催日：令和4年6月3日（金） 参加者：15人 講師：吉川耕太郎（資料管理活用班副主幹） |
| ②「縄文遺跡としての払田柵跡」 開催日：令和4年7月1日（金） 参加者：21人 講師：森谷康平（中央調査班文化財主事） |
| ③「秋田県内の『末期古墳』について」 開催日：令和4年8月5日（金） 参加者：18人 講師：高橋和成（調査班文化財主査） |
| ④「十和田火山平安噴火について」 開催日：令和4年9月2日（金） 参加者：22人 講師：林信太郎氏（秋田大学特別教授） |
| ⑤「雄物川水運成立の鍵とは何か」 開催日：令和4年10月7日（金） 参加者：18人 |

- 講 師：高橋学氏（雄勝城・駅家研究会代表）
- ⑥「異種と共に生きる想像力ー芸術人類学の視点からー」 開催日：令和4年11月4日（金）
参加者：19人 講 師：石倉敏明氏（秋田公立美術大学准教授）
- ⑦「払田柵跡の環境整備」 開催日：令和4年12月2日（金） 参加者：14人
講 師：星宮聡仁氏（大仙市観光文化スポーツ部文化財課主査）
- ⑧「払田柵跡とは何か」 開催日：令和5年1月6日（金） 参加者：15人
講 師：谷地薫（払田柵跡調査事務所文化財主査）
- ⑨「縄文土器ー考古学者の道標ー」 開催日：令和5年2月3日（金） 参加者：15人
講 師：小松和平（調査班文化財主事）

（3）あきた県庁出前講座

埋蔵文化財センターが受け持つ講座で、秋田の歴史や発掘調査情報を伝えたり、体験活動を行ったりした。

- ①講座番号：185 講座名：「埋蔵文化財から学ぶ秋田の歴史」
開催日：令和4年6月16日（木） 会場：秋田市立中央図書館明德館
参加者：24人
講 師：宇田川浩一（中央調査班副主幹）
- ②講座番号：185 講座名：「埋蔵文化財から学ぶ秋田の歴史」
開催日：令和4年9月4日（日） 会場：湯沢生涯学習センター、湯沢市内の遺跡
参加者：4人
講 師：吉川耕太郎（資料管理活用班副主幹）
- ③講座番号：185 講座名：「埋蔵文化財から学ぶ秋田の歴史」
開催日：令和4年9月25日（日） 会場：由利本荘市文化交流館カダレー
参加者：15人
講 師：村上義直（調査班副主幹）
- ④講座番号：188 講座名：「縄文クラフト講座」
開催日：令和4年10月8日（土） 会場：小坂町交流センターセパーム
参加者：15人
講 師：堀川昌英（資料管理活用班学芸主事） 乙戸崇（資料管理活用班文化財主任）
- ⑤講座番号：188 講座名：「縄文クラフト講座」
開催日：令和4年10月15日（土） 会場：秋田県ゆとり生活創造センター遊学舎
参加者：7人
講 師：吉川耕太郎（資料管理活用班副主幹） 堀川昌英（資料管理活用班学芸主事）
乙戸崇（資料管理活用班文化財主任）
- ⑥講座番号：185 講座名：「埋蔵文化財から学ぶ秋田の歴史」
開催日：令和4年11月16日（水） 会場：湯沢勤労青少年ホーム
参加者：31人

講師：吉川耕太郎（資料管理活用班副主幹）

⑦講座番号：185 講座名：「埋蔵文化財から学ぶ秋田の歴史」

開催日：令和4年12月3日（土） 会場：能代市中央公民館視聴覚室

参加者：45人

講師：吉川耕太郎（資料管理活用班副主幹）

⑧講座番号：188 講座名：「縄文クラフト講座」

開催日：令和5年1月13日（金） 会場：高松地区センター（湯沢市）

参加者：13人

講師：堀川昌英（資料管理活用班学芸主事） 乙戸崇（資料管理活用班文化財主任）

⑨講座番号：185 講座名：「埋蔵文化財から学ぶ秋田の歴史」

開催日：令和5年3月17日（金） 会場：保戸野地区コミュニティセンター（秋田市）

参加者：25人

講師：吉川耕太郎（資料管理活用班副主幹）

⑩講座番号：185 講座名：「埋蔵文化財から学ぶ秋田の歴史」

開催日：令和5年3月25日（土） 会場：稲川生涯学習センター（湯沢市）

参加者：27人

講師：吉川耕太郎（資料管理活用班副主幹）

⑪講座番号：188 講座名：「縄文クラフト講座」

開催日：令和5年3月28日（火） 会場：運動学習支援教室ふれんず秋田南教室（秋田市）

講師：堀川昌英（資料管理活用班学芸主事） 乙戸崇（資料管理活用班文化財主任）

参加者：3人

（４）埋蔵文化財発掘調査報告会

秋田県教育委員会及び市町村教育委員会、民間団体の実施した発掘調査成果を広く県民に公開し、埋蔵文化財の保護について理解を深めてもらうことを目的に、昭和56年度から発掘調査報告会を開催している。

令和元・２・３年度と新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止としたが、今年度は令和5年3月4日（土）、秋田県生涯学習センターを会場として4年ぶりに開催した。感染症拡大防止対策の一環として、定員220名の事前申込制とし、会場内での質疑応答の時間は設けなかった。

参加者は92人で、配布資料に目を通し、熱心にメモを取ったり報告を聞くなど関心の高さがうかがえた。あわせて開催した県立図書館での出張展示「あきた遺跡発掘最前線！2022」でも熱心に展示品を観覧する姿が見られた。

【報告内容】

- | | |
|-----------------|---------------------|
| 1 立浪遺跡（湯沢市） | 調査班文化財主事 小松和平 |
| 2 赤ハゲⅠ・Ⅱ遺跡（能代市） | 能代市教育委員会 工藤晃氏 |
| 3 ヲフキ遺跡（にかほ市） | 調査班文化財主事 大上立朗 |
| 4 史跡秋田城跡（秋田市） | 秋田市立秋田城跡歴史資料館 神田和彦氏 |

- | | |
|------------------------|-------------------------|
| 5 十足馬場南遺跡（横手市） | 雄勝城・駅家研究会 高橋学氏 |
| 6 史跡払田柵跡（大仙市・美郷町） | |
| 十足馬場東遺跡（横手市） | 県教育庁払田柵跡調査事務所文化財主査 谷地薫 |
| 7 西小泉遺跡・堀田Ⅰ遺跡（横手市） | 横手市教育委員会 藤原正大氏 |
| 8 金沢城跡（横手市） | 横手市教育委員会 島田祐悦氏 |
| 9 薬師堂一番堰遺跡（由利本荘市） | 由利本荘市教育委員会 三原裕姫子氏 |
| 10 史跡檜山安東氏城館跡檜山城跡（能代市） | 能代市教育委員会 播摩芳紀氏 |
| 11 大館城跡（大館市） | 大館市教育委員会 馬庭和也氏 |
| 12 久保田城跡（秋田市） | 秋田市観光文化スポーツ部文化振興課 佐藤桃子氏 |



報告会会場の様子



報告の様子

（５）地域報告会（湯沢市内埋蔵文化財発掘調査報告会）

地域報告会は、発掘調査が行われた地域の方々に調査成果を紹介することで、埋蔵文化財をとおりて地域の歴史に一層の理解と関心を持つことを目的としている。今年度は令和5年3月12日（日）に湯沢文化会館で「湯沢市内埋蔵文化財発掘調査報告会」として開催し、近年、埋蔵文化財センターが湯沢市内で実施した埋蔵文化財発掘調査成果を報告した。

参加者は137人で、調査の様子や検出遺構、遺物を映したスライドに注目したり、メモを取りながら熱心に報告を聞いており、関心の高さがうかがえた。準備や運営、広報にあたり、湯沢市教育委員会から協力をいただいた。

【報告内容】

- | | | |
|-----------|-----------|------|
| 1 赤塚遺跡 | 中央調査班学芸主事 | 山村剛 |
| 2 横堀中屋敷遺跡 | 調査班学芸主事 | 鈴木裕 |
| 3 大鍋遺跡 | 調査班文化財主事 | 大上立朗 |
| 4 立浪遺跡 | 調査班文化財主事 | 小松和平 |



報告の様子

(6) 講座の動画配信

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、秋田県埋蔵文化財センターでは、企画する講演会の中止や講座等の人数制限や延期を余儀なくされている。当センターの調査研究成果を普及するため、講座を動画で記録し、YouTubeチャンネルで配信することで、広く県民が活用できる機会を提供した。

- 撮影動画
- ①令和3年度茱萸ノ木遺跡発掘調査成果報告
 - ②令和3年度赤塚遺跡発掘調査成果報告
 - ③令和3年度払田柵跡第155次調査成果報告
 - ④あきた埋文金曜講座 第4回「十和田火山平安噴火について」
 - ⑤あきた埋文金曜講座 第5回「雄物川水運成立の鍵とは何か」
 - ⑥あきた埋文金曜講座 第8回「払田柵跡とは何か」

動画公開 YouTubeのチャンネル名称：「あきた埋文チャンネル」

- ①・②・③令和4年4月6日（水） 公開
- ④令和4年10月12日（水） 公開
- ⑤令和4年10月25日（火） 公開
- ⑥令和5年2月20日（月） 公開

5 体験教室

(1) 主な体験メニューと概要

| 目的 | 活動名 | 主な内容 |
|-----------------------|--------------------|---|
| 縄文の暮らし に親しむ | コースターづくり (縄文染め) | 様々な縄文文様や土偶などの形にくり抜いた紙型を麻布に被せ、マジックペンで染め付けていくものである。個人のセンスで様々な色合いの作品に仕上がる。 |
| | 弓矢体験 | 竹刀の廃材を利用した竹材に、たこ糸を張って作った弓で、動物がプリントされた的を射る体験である。的には、縄文人が食べていた様々な動物がプリントされ、体験意欲をかき立てる。 |
| | 縄文衣装着用体験 | 麻布で作った縄文衣装を着用して着心地を確かめてみる体験である。 |
| | 火起こし体験 | 火きり杵(棒)と火きり臼(板)を利用した舞いきり法を中心に実施している。発火にいたらなくても、成功体験が味わえるよう、①摩擦による発煙、②火だねづくり、③火だねからの発火、という3段階のチャレンジとして取り組んでもらうことにしている。また、もみきり法なども紹介している。 |
| | ミニ土器 レリーフづくり | 気軽に施文体験ができるよう、型枠に粘土を埋め込んで作ったミニ土器の表面(半面)を各種原体で施文し、オリジナルな土器レリーフを作るものである。 |
| | 縄文原体づくり | 縄文土器や土偶に文様を施すための縄文原体を紙ひもで作し、粘土に文様を施してみる体験である。 |
| | 石器づくり | 珪質頁岩や黒曜石を用いて、原石の打ち割りから矢尻やナイフの仕上げまで参加者のレベルに合わせて体験するものである。 |
| | 勾玉づくり | 勾玉についての事前レクチャーをしたのち、勾玉キットを用いて製作する体験である。 |
| 整理作業の おもしろさを 知る | 拓本体験 | 初心者でも安心して体験ができるよう、丈夫な須恵器の破片を利用する。打ち終わった拓本は、乾燥させラミネートする。 |
| | 土器復元体験 | 細かなパーツに分解されたレプリカの土器を文様や割れ口などを手がかりにして組み立て、復元を目指す。 |

(2) オープンラボ

依頼者側と内容や新型コロナウイルス感染症拡大防止について打ち合わせを行い、対策を万全に期した上で次のとおり実施した。

体験教室（児童～一般）

- 開催日：①令和4年7月21日（木） 会場：キッズオアシス（秋田市）
開催日：②令和4年7月24日（日） 会場：秋田市農山村地域活性化センターさとびあ
開催日：③令和4年7月25日（月） 会場：秋田市立桜小学校
開催日：④令和4年7月27日（水） 会場：史跡払田柵跡
開催日：⑤令和4年7月29日（金） 会場：田沢湖公民館（仙北市）
開催日：⑥令和4年8月2日（火） 会場：朝倉公民館（横手市）
開催日：⑦令和4年8月4日（木） 会場：境町公民館（横手市）
開催日：⑧令和4年8月19日（金） 会場：大綱交流館（大仙市）
開催日：⑨令和4年8月23日（火） 会場：上小阿仁村生涯学習センター
開催日：⑩令和4年9月17日（土） 会場：象潟公民館（にかほ市）
開催日：⑪令和4年10月4日（火） 会場：山の学校北の風（秋田市）
開催日：⑫令和4年10月14日（金）～15日（土） 会場：秋田市立秋田商業高等学校
開催日：⑬令和4年10月29日（土） 会場：秋田県立農業科学館
開催日：⑭令和4年11月5日（土） 会場：秋田市農山村地域活性化センターさとびあ
開催日：⑮令和5年1月12日（木） 会場：雄物川コミュニティーセンター（横手市）
参加者：①6人、②15人、③21人、④25人、⑤10人、⑥16人、⑦10人、⑧11人、⑨17人、
⑩11人、⑪8人、⑫32人、⑬61人、⑭9人、⑮10人、

内 容：①縄文時代の学習、ミニ土器レリーフ、縄文コースターづくり、弓矢 ②縄文時代の学習、土器づくり ③縄文時代の学習、縄文コースターづくり、弓矢、石器づくり見学、火起こし ④火起こし、弓矢 ⑤火起こし、土器の観察、土器復元 ⑥縄文時代の学習、縄文コースターづくり、弓矢 ⑦縄文時代の学習、縄文コースターづくり、弓矢 ⑧縄文時代の学習、勾玉づくり、弓矢 ⑨縄文時代の学習、ミニ土器レリーフ、縄文コースターづくり、弓矢 ⑩縄文時代の学習、縄文コースターづくり、土器復元、弓矢 ⑪縄文時代の学習、火起こし、石器づくり ⑫土器復元、土器の拓本、土器の写真撮影、岩石（珪質頁岩と黒曜石）の分類 ⑬弓矢、縄文コースターづくり ⑭縄文時代や石器についての学習、石器づくり、石器使用体験 ⑮縄文時代の学習、縄文コースターづくり、弓矢

①キッズオアシス（秋田市新屋）

縄文時代の学習、ミニ土器レリーフづくり、縄文コースターづくり、弓矢の体験活動を行った。分かりやすいように心がけ、一人一人の活動状況を確認しながら行った。弓矢体験では、はじめは矢が前に飛ばずに苦勞していたが、しだいにコツをつかんでいき、遠くまで矢を飛ばしたり的に当てることができるようになり、上達する子どもが多く見られた。



弓矢体験の様子

②さとぴあ体験教室（縄文講座とミニ土器づくり体験）

埋蔵文化財センターの紹介や縄文土器をはじめとした縄文時代の学習を行った。スライドを用いて説明し、センターから持参した様々な施文具を使い、土器づくりにチャレンジしていた。参加者はセンター所蔵の縄文土器に触れたり観察しながら縄文土器への理解を深めていった。



ミニ土器づくり体験の様子

③秋田市立桜小学校

縄文時代の学習、縄文コースターづくり、弓矢、石器づくり見学、火起こし体験を行った。センターの紹介や持参した縄文土器や石器を手にとって観察しながら、縄文時代について学習を深めた。縄文土器や石器の観察では児童の発言も多く、興味・関心が高かった。各体験活動も各自熱心に取り組んでいた。



石器づくり見学の様子

④払田柵跡ふるさと体験ワークショップ

弓矢、火起こし体験を行った。炎天下での活動であり、熱中症などに配慮しながら活動した。火起こし体験では、はじめは道具の使い方がわからず苦勞していたが、しだいにコツをつかんで火起こしができるまで上達する子どもも多く見られた。また、互いに教えあったり、協力して火起こしに取り組む姿も見られた。



火起こし体験の様子

⑤田沢湖公民館（仙北市）

センターの紹介、火起こし、土器復元体験を行った。火起こし体験では、はじめは火きり棒の回転がうまくいかなかったが、しだいにコツをつかんで取り組み、着火することができた。土器接合体験では、県内出土の土器を手にとって観察してから接合作業に入った。土器の紋様を十分に観察し理解を深めていた。



火起こし体験の様子

⑥朝倉公民館（横手市）

センターの紹介、縄文時代の学習、縄文コースターづくり、弓矢体験を行った。縄文土器や石器の観察では初めて実物を見たり、触る体験をしたことで興味・関心を持つ児童が多くいた。体験活動も各自熱心に取り組んでいた。教室スタッフ（指導員）の方々にも協力いただき、滞りなく活動を終えることができた。



縄文コースターづくり体験の様子

⑦境町公民館（横手市）

センターの紹介、縄文時代の学習、縄文コースターづくり、弓矢体験を行った。縄文土器や石器の観察では初めて実物を見たり、触る体験をしたことで興味・関心を持つ児童が多くいた。また、センターで調査した周辺遺跡（秋田ふるさと村）の遺物も持参し、身近な場所に遺跡があることへの興味関心を高める工夫もおこなった。体験活動も各自熱心に取り組んでいた。



縄文コースターづくり体験の様子

⑧大綱公民館（大仙市）

センターの紹介、縄文時代の学習、勾玉づくり、弓矢体験を行った。一般の方から児童まで幅広い参加があった。西仙北周辺でセンターが調査した遺跡の遺物を持参し、身近な場所の遺跡があったことへの興味・関心を高める工夫を行った。勾玉づくりや弓矢体験は大人の参加者が子どもの活動を手伝い、概ね順調に作業を進めていくことができた。



勾玉づくり体験の様子

⑨上小阿仁村生涯学習センター

センターの紹介、縄文時代の学習、ミニ土器レリーフ、縄文コースターづくり、弓矢体験を行った。一般の方から児童まで幅広い参加があった。上小阿仁村でセンターが調査した遺跡の遺物を紹介し、身近な場所に遺跡があったことへの興味・関心を高める工夫を行った。活動全体で小学生と高齢者がコミュニケーションを取り、楽しみながら活動していくことができた。



ミニ土器レリーフづくり体験の様子

⑩にかほ市象潟公民館

センターの紹介、縄文時代の学習、縄文コースターづくり、土器復元体験、弓矢体験を行った。にかほ市内でセンターが調査した遺跡の遺物を紹介し、縄文土器や石器の観察を実物に触れながら学習を深める工夫を行った。土器復元体験では土器の文様に注目しながら作業を進めていた。弓矢体験も楽しみながら取り組み、予定通りの時間内で講座を終了した。



弓矢体験の様子

⑪山の学校北の風（縄文デイキャンプ）

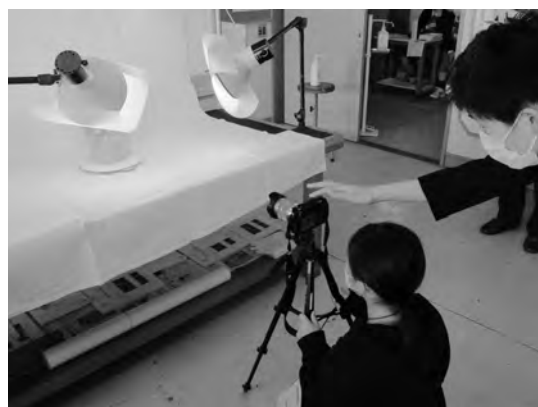
秋田市農山村地域活性化センターさとびあ主催の「縄文デイキャンプ」への協力として参加した。山の学校の小野氏の全面協力を得て実施し、縄文時代の学習、火起こし、石器づくり体験を行った。平日の開催ということもあり、一般の参加者だけであった。あいにくの雨天であったため、屋内で活動した。初めての試みではあったが、参加者の好意的な協力により予定通り順調に進めていくことができた。来年度も実施したいとのことで、今回の内容を吟味し、さらに充実した内容となるよう協力を検討していく。



石器使用体験の様子

⑫キッズビジネスタウン(秋田市立秋田商業高等学校)

秋田市立秋田商業高校主催の「キッズビジネスタウンinAKISHO」での「考古学センター」ブースへの協力として参加した。秋田商業高校の生徒が小学生に仕事内容を教えたり、作業をサポートすることで社会やビジネスの仕組みへの理解を深める事を目的としたこの活動の中で生徒への考古学的な知識や技術の面での支



遺物の写真撮影体験の様子

援を行った。主体的に生徒が動けるように目配りをしながら考古学の魅力を来場者に伝えられるよう努めた。

⑬農業科学館オータムフラワーフェスタ

令和4年度秋田県立農業科学館オータムフラワーフェスタ期間中のイベントの一つとして弓矢と縄文コースターづくり体験を行った。また、東屋内に持参した土器を数点展示し考古資料への興味・関心を高める工夫を凝らした。弓矢に何度も取り組む子どもが多く、子どもと一緒に保護者も弓矢を体験する姿が見られた。作業や運営にあたって農業科学館より協力をいただいた。



弓矢体験の様子

⑭さとびあ体験教室（石器づくり体験）

はじめに、縄文時代や石器の学習を約30分行った。続いて剥片剥離の仕方の実演と石器づくりの際の注意点を説明した上で、剥片剥離や二次加工の作業を行った。参加者は自分の作ったナイフでリンゴの皮をむき切れ味を体感していた。黒曜石と珪質頁岩の特徴や長所・短所を解説し、剥片と石器に関する資料を参加者に配布し、活動を終えた。



縄文時代や石器についての学習の様子

⑮雄物川コミュニティセンター（横手市）

土器や石器の観察では、持ち方に注意しながらサポートした。初めて実物を見たり、触る体験をしたことで興味・関心が高かった。中には、令和3年度に雄物川小学校で実施した出張展示のことを話してくれた児童もあり、展示した土器や土偶が強く印象に残っていたようだ。また、身近な場所（秋田ふるさと村）が遺跡であったことに驚いていた。続いて行った体験活動も各自熱心に取り組み、コースターは複数作成し、丁寧に仕上げていた。弓矢体験では、はじめは矢が前に飛ばずに苦労していたが、しだいに遠くまで矢を飛ばしたり的に当てることができるようになり、上達する子どもが多く見られた。運営では教室スタッフ（指導員）の方々に協力をいただき、予定どおり行った。



弓矢体験の様子

(3) 払田柵跡の歩き方

開催日：令和4年7月30日（土）
会場：埋蔵文化財センター・払田柵跡
参加者：20人
講師：酒井浩氏（森林インストラクター）
吉川耕太郎（資料管理活用班副主幹）



活動の様子

調査成果に基づいて環境復元整備を進めている払田柵跡での自然観察を通じて、平安時代と現代の自然を学び、あわせて調査成果への理解も深めることによっ

て、史跡公園としての払田柵跡に親しんだ。学校の夏休み期間ということもあり、小学生を中心とした親子の参加が目立ち、活況を呈した。

6 学校利用・研修等

(1) セカンドスクールの利用

セカンドスクールの利用は、県教育庁生涯学習課が推進する事業で、教育施設等の人的・物的機能を十分に活用し、学校と教育施設等が一体となって、郷土の自然や文化との触れ合い体験・共同生活体験、各教科や総合的な学習の時間等の取組を複合的に実施する利用方法である。当センターでは、考古資料に触れる体験を中心に社会科、総合学習等をサポートしている。最近では歴史の学習に関する内容のほかに、センターの仕事内容や専門職員になるための進路などキャリア教育に関する内容も扱っている。また、来所しての利用に加え、センター職員が学校に資料等を持参して行う出前授業の形態も増えている。さらに今年度は、従来の教室で出土品に触れる体験を中心とした出前授業の形式のほか、地域の文化財について現地を散策しながら学習する要望もあった。対応していく中で地域の文化財の現状や遺構の構造を把握することができた。一方、子どもたちに実際に現地を歩いて地域の歴史を感じ取ってもらい、想像力を働かせることも大切であると感じた。

①利用状況

| | 小学校 | 中学校 | 高等学校 | その他 | 合計 |
|------|------|------|------|-----|------|
| 利用件数 | 23件 | 6件 | 12件 | 5件 | 46件 |
| 利用人数 | 603人 | 159人 | 74人 | 5人 | 841人 |

②活動の具体例

| | |
|------------|--|
| 縄文時代学習 | 縄文土器や石器に触れ、用途などを学ぶ。 |
| 石器づくり・施文体験 | 古代の技術を体験することで当時の人々の知恵に学ぶ。 |
| 施設見学 | 特別展示室や整理作業室、収蔵庫で、遺物や整理作業を見学する。 |
| 授業サポート | 地域の遺跡や文化財の学習を支援する。 |
| 出前授業 | 縄文時代を中心に古代にかけての地域の歴史を扱った。出土品を実際に手に取り、地域の歴史や文化財への興味・関心を深め、その後の歴史学習に対する意欲を高めることを目的としている。 |

(2) インターンシップ・職場体験

| | |
|---|-------------------|
| ①期間：令和4年5月30日（月）～6月3日（金） 生徒：秋田県立栗田支援学校高等部2年1人 | 会場：埋蔵文化財センター中央調査班 |
| ②期間：令和4年7月22日（金）・7月25日（月） 生徒：秋田県立横手城南高等学校2年1人 | 会場：埋蔵文化財センター |
| ③期間：令和4年7月26日（火）～7月28日（木） 生徒：秋田県立大曲工業高等学校2年4人 | 会場：埋蔵文化財センター |
| ④期間：令和4年8月1日（月）～8月2日（火） 生徒：秋田県立角館高等学校2年2人 | 会場：埋蔵文化財センター |
| ⑤期間：令和4年8月3日（水）・8月5日（土） 児童：美郷町管内の小学生5・6年生（ミズモの郷キャリアスクール） ※中止 | 会場：埋蔵文化財センター |
| ⑥期間：令和4年10月13日（木）～10月14日（金） 生徒：大仙市立仙北中学校1年6人 | 会場：埋蔵文化財センター |

埋蔵文化財センターの仕事を体験し、勤労観や職業観を育むことを目的としており、埋蔵文化財保護行政や埋蔵文化財センターの概要、役割に関する講話の後、施設見学や資料管理活用班の業務補助（体験）、遺跡出土遺物の洗浄等の整理作業を体験した。⑤は、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、県の感染警戒レベルが引き上げられたことから中止とした。

(3) 博物館実習

| |
|---|
| 期間：令和5年3月6日（月）～3月10日（金） 予定 会場：埋蔵文化財センター 大阪芸術大学科目等履修生学芸員課程1人 |
|---|

埋蔵文化財センターにて、業務内容の説明を受け、施設見学をしたあと、展示用梱包材の製作や展示計画の検討、資料の取り扱いと写真撮影、キットを使用した体験活動等に取り組み、埋蔵文化財に関する一連の業務を実習した。



実習の様子

(4) 教員免許更新講習

これまで、特別展示室の解説や当センターの各種「貸し出しキット」、学習教材としての活用を紹介してきた。令和4年7月1日に教員免許更新制の廃止が施行されたため、当センターでの講習対応も終了した。

(5) 中堅教員等資質向上研修

発掘調査や整理作業の体験、文化財等を用いた教材開発、探究活動のデザイン等を行う。本年度の申込みはなかった。

7 貸し出し

(1) 貸し出しキット等

学校などに教材として活用できる次のキットやDVDの貸し出しを行った。

狩りと漁キット 土器資料キット 調理キット 縄文土器複製キット 竪穴住居キット
原体・粘土キット 縄文衣装キット 火起こしキット 紹介DVD「ようこそ秋田の古代」

古代体験キット・ビデオの貸し出し実績

所蔵資料・古代体験キット・ビデオの貸し出し実績

| | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 |
|---------|-------|-------|-------|
| キット貸出数 | 4件 | 6件 | 6件 |
| ビデオ貸出数 | 0件 | 1件 | 0件 |
| 火起こし貸出数 | 1件 | 3件 | 2件 |

(2) 資料貸し出し

掲載資料の貸し出し・掲載許可等実績

| | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 |
|---------|-------|-------|-------|
| 所蔵資料貸出数 | 26件 | 18件 | 22件 |

今年度の内訳

| | 使用目的（複数利用含む） | | |
|-----------|--------------|-------|-----|
| | 展示公開 | 書籍等掲載 | 研究他 |
| 遺跡出土品 | 7件 | 0件 | 0件 |
| フィルム写真データ | 0件 | 0件 | 0件 |
| デジタル写真データ | 4件 | 10件 | 1件 |
| その他 | 0件 | 0件 | 0件 |

(3) レファレンス

当センターでは県内の埋蔵文化財等に関する質問を受け付けている。令和2年度から質問内容の集計を始めた。今年度、県内外からの問い合わせ件数は次のとおりである。

旧石器時代7件、縄文時代28件、弥生・古墳時代0件、古代9件、中近世0件、考古学一般1件、埋蔵文化財センターに関すること11件、その他照会等97件（合計153件）。

第3節 その他の活動

1 図書整理・公開

当センターで発刊した報告書等や他県などから送付された報告書等を登録、配架し、図書の利用環境を整備した。

(1) 全国遺跡報告総覧への公開

- 秋田県埋蔵文化財センター年報 34～40
- 秋田県文化財調査報告書第515集「遺跡詳細分布調査報告書」
- 秋田県文化財調査報告書第517集「手の上遺跡」
- 秋田県文化財調査報告書第520集「遺跡詳細分布調査報告書」
- 秋田県文化財調査報告書第523集「代官小路遺跡」
- 秋田県文化財調査報告書第524集「峰吉川中村遺跡（第2次）」
- 秋田県文化財調査報告書第525集「遺跡詳細分布調査報告書」
- 秋田県文化財調査報告書第530集「払田柵跡―第156次調査・関連遺跡の調査概要―」

(2) 秋田県立図書館「デジタルアーカイブ」への一般公開

- 令和3年度企画展パンフレット「あきた遺跡発掘物語」
- 令和4年度払田柵跡パンフレット「史跡 払田柵跡」
- 平成30年度秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会資料
- 令和元年度秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会資料
- 令和3年度秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会資料
- 令和4年度秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会資料

2 刊行物

| | | | |
|----|---|------|------|
| 書名 | 秋田県埋蔵文化財センター年報 40 令和3年度 | 発行年月 | 4年6月 |
| 内容 | 秋田県埋蔵文化財センターの令和3年度の事業活動を総括し、沿革、組織・施設、令和3年度のあゆみ、事業の概要、研究事業、40周年記念事業、運営協議会等を記載。事業の概要では、令和3年度に発掘調査した遺跡の概要、活用・普及事業の実績を掲載。 | | |

| | | | |
|----|---|------|------|
| 書名 | 令和4年度払田柵跡パンフレット「史跡 払田柵跡」 | 発行年月 | 4年9月 |
| 内容 | 秋田県で最初に国指定史跡に指定された払田柵跡の概略、出土遺物、見学のポイント等について、カラー写真やイラスト、平易な文章で紹介したパンフレット。A4版カラー8頁。 | | |

| | | | |
|----|---|------|------|
| 書名 | 令和4年度秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会資料 | 発行年月 | 5年2月 |
| 内容 | 令和5年3月4日に秋田市で開催した令和4年度秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会の配付資料。令和4年度に県内で発掘調査された遺跡のうち、主要な遺跡の発掘調査成果について、カラー写真と平易な文章で紹介。県内発掘調査遺跡一覧表と遺跡位置図、年表も掲載。A4版カラー38頁。 | | |

| | | | | | |
|-----|--|--|-------|------|------|
| 遺跡名 | オノ神遺跡 | 発掘調査年 | 元・2年度 | 発行年月 | 5年3月 |
| 書名 | 秋田県文化財調査報告書第527集 オノ神遺跡—河川改修事業（芋川）に係る埋蔵文化財発掘調査報告書— | | | | |
| 内容 | 遺跡の時代 | 旧石器時代 縄文時代 近世 | | | |
| | 遺跡の性格 | キャンプ地（旧石器時代） 集落跡（縄文時代・近世） | | | |
| | 検出遺構 | 旧石器時代：石器ブロック3か所 縄文時代：竪穴建物跡3棟 竪穴状遺構6基 土坑23基 土器埋設遺構1基 焼土遺構12基 溝状遺構1条 土器集中範囲1か所 柱穴様ピット120基 性格不明遺構2基 近世：土坑4基 | | | |
| | 出土遺物 | 旧石器時代：ナイフ形石器 削器 彫刻刀形石器 錐状石器 石刃・剥片類 石核 縄文時代：縄文土器 土製品 石器 石製品 近世：陶磁器 | | | |

| | | | | | |
|-----|---|-------|--|------|------|
| 遺跡名 | 烏野上岱遺跡・竜毛沢IV遺跡・竜毛沢V遺跡 | 発掘調査年 | 元～3年度 | 発行年月 | 5年3月 |
| 書名 | 秋田県文化財調査報告書第528集 烏野上岱遺跡（第2次） 竜毛沢IV遺跡 竜毛沢V遺跡 —一般国道7号能代地区線形改良事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書— | | | | |
| 内容 | 烏野上岱遺跡 | 遺跡の時代 | 縄文時代 弥生時代 平安時代 時期不明 | | |
| | | 遺跡の性格 | 狩猟場・キャンプ地（縄文時代） 墓域（弥生時代） 生産域（平安時代） | | |
| | | 検出遺構 | 縄文時代：陥し穴15基 土坑1基 遺物集中地点7か所 溝跡1条 柵列跡3条 硬化面2か所 弥生時代：土坑墓2基 平安時代：土坑3基 炭窯4基 道路跡1条 溝跡1条 時期不明：土坑25基 | | |
| | | 出土遺物 | 縄文時代：土器 石器 石錐 石篋 弥生時代：土器（中期後葉） アメリカ式石鏃 平安時代：土師器 | | |
| 内容 | 竜毛沢IV遺跡 | 遺跡の時代 | 平安時代 | | |
| | | 遺跡の性格 | 居住域 生産域 | | |
| | | 検出遺構 | 竪穴建物跡1棟 土坑7基 炭窯跡1基 溝跡2条 | | |
| | | 出土遺物 | 土師器 | | |
| 内容 | 竜毛沢V遺跡 | 遺跡の時代 | 縄文時代 平安時代 | | |
| | | 遺跡の性格 | 散布地（縄文時代） 居住域・生産域（平安時代） | | |
| | | 検出遺構 | 縄文時代：柱穴跡1基 平安時代：竪穴建物跡6棟 掘立柱建物跡2棟 土坑3基 炭窯跡4基 鍛冶炉跡1基 焼土遺構3基 溝跡2条 柵列跡3条 | | |
| | | 出土遺物 | 縄文時代：土器 敲石 平安時代：土師器 須恵器 刀子 砥石 土錘 | | |

| | | | | | |
|----|---------------------------------|-------|-----|------|------|
| 書名 | 秋田県文化財調査報告書第529集 遺跡詳細分布調査報告書 | 発掘調査年 | 4年度 | 発行年月 | 5年3月 |
| 内容 | 令和4年度に実施した遺跡分布調査と遺跡確認調査の報告。 | | | | |

| | | | |
|----|---|------|------|
| 書名 | 秋田県埋蔵文化財センター研究紀要 第37号 | 発行年月 | 5年3月 |
| 内容 | <p>論考 谷地薫 猫袋遺跡の道路遺構について 小山美紀 南外窯跡群における年代観の再検討―片口鉢を中心に―</p> <p>資料紹介 小松和平・宇田川浩一・遠田幸生・千葉隆・沓名潤子 蛍光X線による星宮遺跡出土土器付着赤色顔料成分分析</p> | | |

3 講演・研究論文等

令和4年6月

〈講演〉谷地薫「元慶の乱の『流霞道』を美郷町で考える」『後三年合戦美郷プロジェクト講演会』
 後三年合戦美郷プロジェクト

〈講演・資料〉谷地薫「払田柵跡研究の現状と課題―まもなく調査50年―」『秋田県歴史研究者・研究団体協議会 春の歴史フォーラム』 秋田県歴史研究者・研究団体協議会

令和4年8月

〈講演・資料・動画配信〉谷地薫「猫袋遺跡の道路跡」『第11回令和4年度後三年合戦沼柵公開講座
 「『雄勝村』の土器―雄勝城時代の土器と造山遺跡群―』 横手市教育委員会

令和4年9月

〈講演〉谷地薫「黒森越えの道―平安時代に二千人の軍勢が・・・?―」『六郷登山協会文化講演会』
 六郷登山協会

〈論文〉谷地薫「払田柵跡研究の現状と課題―まもなく調査50年―」『秋田歴研協会誌』第78号 秋
 田歴史研究者・研究団体協議会

令和4年11月

〈発表〉宇田川浩一「渋江屋敷の造成と久保田城下の地形・地質との関係について」『博古研究会
 2022年度研究大会資料集 近世城郭の発掘調査・研究』 博古研究会

令和4年12月

〈講演〉吉川耕太郎「モノづくりの淵源と芸術性の獲得」『第4回十二支館宇宙フェスタinなかいちシ
 ンポジウム』 十二支館宇宙フェスタ実行委員会

〈論文〉小松和平「東北地方における有孔罅付土器の様相（1）―東北地方北部の事例報告―」『秋
 田考古学』第66号 秋田考古学協会

〈論文〉乙戸崇「秋田市古川堀反町遺跡出土『金箔かわらけ』に関する一考察」『秋田考古学』第66
 号 秋田考古学協会

4 職員研修会

今年度は、重点目標の一つに掲げられた「よき公務員、よき社会人、よき人間」となることを目標に職員研修を計画・運営した。人材の育成は今後のセンター経営上の課題となる。今後も職員間でさらに連携を取りながらさまざまな研修を計画・運用することが求められる。

(1) 不祥事防止研修

- ①目的 一人一人が不祥事について自分の事として考え、飲酒運転や交通事故などの不祥事を起こさない職場作りをめざす。
- ②期 日 令和4年6月24日（金）
- ③場 所 埋蔵文化財センター・埋蔵文化財センター中央調査班
- ④研修内容
 - 1 不祥事防止について（最近の県内公務員による不祥事事例）
 - 2 事例研究（飲酒運転、交通事故）
 - 3 班での意見共有、全体での意見共有

(2) 職員技術研修会

埋蔵文化財発掘調査に関する知識・技術について、発掘調査現場等で実地研修を行い、職員の技術・技能の向上を図る目的で開催している。今年度は、令和4年9月9日（金）に立浪遺跡発掘調査現場（湯沢市）と北ノ又沢Ⅲ遺跡発掘調査現場（東成瀬村）で急斜面における遺物の出土状態を確認したり、遺跡の立地や特徴及びダム建設地内における発掘調査で留意すべき点について研修する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とした。

(3) 職場のメンタルヘルス

- ①目的 ストレスへの対処法、セルフケア、リラクゼーション方法について学び、ストレスとの向き合い方について考える。
- ②日 時 令和4年12月26日（月） 10:00～11:30
- ③場 所 埋蔵文化財センター（オンラインで実施）
- ④講 師 公立学校共済組合 東北中央病院 主任臨床心理士 古澤あや氏
- ⑤研修内容 講話「職場のメンタルヘルス」

(4) 防災・避難訓練、交通安全講話

- 実施日：令和4年5月25日（水） 防災避難訓練（地震）／中央調査班 ※栗田支援学校合同
- 実施日：令和4年12月1日（木） 防災避難訓練（火災）／中央調査班 ※栗田支援学校合同
- 実施日：令和4年12月15日（木） 交通安全講話／中央調査班
- 実施日：令和5年1月20日（金） 防災避難訓練（火災）／中央調査班 ※栗田支援学校合同

(5) 全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会北海道・東北ブロック会議

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として書面での開催となった。

(6) 「県内の縄文土器の見方」、「調査で注意すべきこと－遺構編－」

- ①目的 縄文土器片からおおよその時期や特徴をつかむ。縄文原体の基本を理解する。誤認しやすい遺構や見落とししやすい遺構を理解する。

調査結果を次の調査へフィードバックさせる。

- ②日 時 令和5年3月24日（金） 14:00～15:30
- ③場 所 埋蔵文化財センター
- ④講 師 「県内の縄文土器の見方」 村上義直（埋蔵文化財センター副主幹）
「調査で注意すべきことー遺構編ー」 吉川耕太郎（埋蔵文化財センター副主幹）
- ⑤研修内容 「県内の縄文土器の見方」 講話 縄文土器観察 縄文原体づくり体験
「調査で注意すべきことー遺構編ー」 講話

5 その他相談等対応

（1）市町村教育委員会への助言・協力

湯沢市教育委員会からの要請により、稲庭城で開催した企画展「湯沢の縄文展」とジオスタ☆ゆざわで開催した企画展「山下孫継展」での展示助言及び展示協力を行った。当初、埋蔵文化財センター借用資料についての展示協力であったが、実際には資料の開梱から展示レイアウトの検討と確定、指定場所での展示作業を行った。また、キャプションの制作・パネルの作成と掲示について指示し、パネルへの貼り方やカッターの使い方なども助言した。ほとんどゼロからのスタートであったが、展示の形に仕上げることができた。展示終了後の撤収時も職員を派遣し、梱包作業を行った。このような対応をする中で新たな資料の発見にもなり、参考となるが多かった。

市町村によっては、専門職員がおらず考古資料の取り扱いに不慣れである以上、こうした要望に対して助言や協力することも埋蔵文化財センターに求められている役割と考える。今後もさまざまな依頼や協力が考えられるが、地域における埋蔵文化財の活用を促進するためにできるだけサポートしていきたい。

（2）県立横手高等学校所蔵資料の取り扱い

県立横手高等学校の新校舎建築に伴い、収蔵していた資料を展示できるスペースの確保が難しく、これを機に授業で使うもの以外は埋蔵文化財センターに預かってもらいたいとの相談があった。同校所蔵資料の再整理が必要であるため、一旦当センターで預かり、情報を整理してから今後の方針を学校側とともに検討することとした。

第5章 運営協議会

- 1 委員：小松正夫委員長、栗林靖雄副委員長、金子徹章委員、北野悟委員、栗谷川学委員
小坂靖尚委員、佐々木淳一委員、菅原和仁委員、山崎裕子委員、渡部育子委員
- 2 事務局：磯村所長、佐藤副所長、川本総務班長、村上調査班長、袴田中央調査班長、
吉川資料管理活用班長、谷地払田柵跡調査事務所班長、堀川学芸主事
- 3 第1回：令和4年6月16日(木) 14:00～15:30（意見及び提言等の集約）
 - (1) 案件 ① 令和3年度事業報告
 - ② 令和4年度事業計画
 - ③ あきた埋文利用拡大についての提言

(2) 意見・提言・要望等（抜粋）

- 学校の利用状況を見ると、コロナ禍の影響もあり、特に小学校の利用は多いが、これらの学校は固定化しているのではないかと。また、中学校や高校の利用についても検討が必要ではないかと。県南地区では、大仙仙北美郷地区以外の横手地域、湯沢雄勝は、R3業績資料を見る限りでは利用実績が少ないので、地域を越えた利用の在り方もあるのではないかと。地域性や年齢について検討してほしい。
- コロナ禍で県外への教育旅行が難しいようで、県内での教育旅行がここ最近頻繁に行われているので、教育旅行との関わりも検討してほしい。センターも修学旅行と組み合わせて利用する方向もあるのではないかと。
- ブラタモリ的に歴史と地理との融合やフィールドワークも面白いと思う。
- 払田柵跡も含めて埋蔵文化財センターについて地元にもこういう所（施設）があるということを訪問した際に話していただければ、子供たちは自分の地域に誇りを持って生きていくことができると思う。
- 埋蔵文化財センターは県内で唯一の埋蔵文化財の調査・研究機関で考古学の専門家が多くいるところはここだけである。調査・研究機関として埋蔵文化財センターが全県をカバーしてほしい。
- 増え続ける出土文化財の整理・保存について、経費がかかり、場所も必要にはなるが、将来的にはAIの活用も見据え、引き続き十分な予算措置の継続をお願いしたい。
- 来年度払田柵跡調査50周年記念の大きな節目となる。秋田県立博物館での展示ということで、日本歴史学会で毎月刊行している「日本歴史」に全国の博物館の展示として掲載されるので全国的な広報活動になり非常に良かったと思う。50周年記念事業では発掘調査をして何が分かるかを重視し、考古学で幾つかの考察をしていただければと思う。払田柵跡の関連遺跡調査で、猫袋遺跡周辺や駅路が秋田までどうつながったかということになると払田柵跡から秋田城までの間のつながりもあるので、そこも含めて来年の展示を楽しみにしている。
- 魁新報の「土に聴け」のコラムをブックレットという形で、出版してもらおうよう働きかけてはどうか。できるだけお金のかからない方法で。これを払田柵跡50周年の記念事業としてはどうか。
- 埋蔵文化財センターを利用した学校であれば来年もということになるが、まだ利用していない学校ではそのよさになかなか気づいていないということもある。この点については、社会科部会に広め

ていきたい。

- 教育旅行についても新型コロナウイルスの関係で県内の旅行が増えた。秋田にもいいところがたくさんあり、県外に出なくても満足いく教育旅行ができています。その中に埋蔵文化財センターが関係してくることは十分に可能であり、また県外の教育旅行の受入れで活用できることも可能ではないか。
- 美郷町の5・6年生対象の職場体験活動を再開するという連絡があり、近隣の施設でもあり、教育委員会に働きかけてそのメニューの中にセンターの活動も含めてもらえば、子供たちが触れる機会になっていくと思う。興味・関心のある子供たちが参加できるようにいろいろな事業を学校に紹介してもらえればと思う。
- 令和3年度実績資料をみると、年間をとおして相当な事業を行っていることになる。人員は限られているが、これだけの事業を行っていることに対して頭が下がる。事業や文化財に興味を持っている一般の方がたくさんいるので、今後も感染に気を配りながらできるだけ今まで以上に事業を計画していただきたい。

4 第2回：令和5年2月9日（木） 14:00～15:30（意見及び提言等の集約）

- (1) 案件
 - ① 令和4年度事業報告
 - ② 令和5年度事業計画案
 - ③ その他（払田柵跡調査事務所50周年記念事業等）
- (2) 意見・提言・要望等（抜粋）

- 西明寺小学校は毎年出前授業を依頼していて、地域の総合学習等の活動がさらに進化している様子が見えたので、センターとのつながりを持つことができてよかった。また、地域の歴史家の方々と埋蔵文化財センターの職員の方々が連携が取れてよかった。場合によっては地域にそのような所がまだまだあるので、その際には埋蔵文化財センターの方々からお知恵をいただきながら活動できるのではないかと思います。
- コロナ禍により人数制限がかかっている中で、これだけ事業を実施している。参加した考古学セミナーでは参加者の熱気が伝わってきた。配付資料もよく、成果があったと感じた。また、企画コーナー展のテーマⅢ「払田柵跡と古代遺跡」を見学して、払田柵跡に関する非常に悩ましい研究史をととても分かりやすくコンパクトに整理し展示していると感じた。
- 払田柵跡調査事務所設立50年のイベント（展示、講演会）は非常に興味深い。より多くの人（特に県民）に払田柵跡に来ていただくために、現地へのアクセスを記載したものを会場に置いてみてはどうか。現地（払田柵跡や埋蔵文化財センター）へのアクセスを記載したものがあってもいいと思う。また、イベントがある時にシャトルバスを運行を検討してはどうか。2010年の平城京遷都1300年のイベントでは、大和西大寺から平城京まで無料のシャトルバスを運行していた。岩手県でも盛岡駅から志波城までシャトルバスを運行し、駅と現地を往復した。例えば美郷町のバスで指定した日に新幹線の到着時刻に合わせて大曲駅からシャトルバスを運行するような企画ができて周知もできれば、県外の方にも現地を訪れてもらうチャンスの一つになるのではないかと感じた。
- 千畑小学校では6年生がセカンドスクールで利用した。本物に触れることができて、教室では感じ

ることのできない感覚的な学びが十分にできた。学級担任も喜んでいて、令和5年度も継続したいと考えている。

- セカンドスクールの利用について、いつも受け入れてもらい、興味がわくような指導があり、また、中堅教員等資質向上研修での対応もしてもらいたい。令和5年度もよろしくお願ひしたい。令和5年度は弘田柵跡調査事務所調査50年という節目の年でもあるが、埋蔵文化財センターの運営や事業でも「コロナ禍で苦しみながら学んだことをいかす」という視点も入れてもらいたい。そこから新たな展開が期待できるのではないかと思う。
- 駐車スペースが十分にあり、バスも利用できるのも、県外の修学旅行への対応を考えてみてはどうか。また現在大人を中心に、城巡りがブームになっているので、「古代城巡り」のような企画も観光コースの一つになると思われる。研究・研修では、コロナ禍前は大学のゼミ旅行で多賀城跡や秋田城跡、弘田柵跡を見学する計画もあり、各大学からの問い合わせや要望をもとに埋蔵文化財センターに対応をお願いしていた。来年度すぐには難しいかもしれないが、今後はこうした県外からの誘客を考えてみてはどうか。
- 発掘調査についての報告が行われているが、資料に記載されている内容がもっとイメージできるようになればいいのでは。例えば見つかった遺構について、写真や数字で大きさを示すだけでなく、CG（AR、VR？）などを利用して立体的に見せてイメージがわくような工夫をしてみてはどうか。また、発掘調査で見つかった課題の解明に向けて調査をお願いしたい。
- さまざまな事業を計画し、取り組んでいることに敬意を表す。そうした中で、以前縄文クッキーづくりに取り組んでいたこともあったと思うので、食に結びつけた事業や体験活動も検討してはどうか。
- 第1回運営協議会で美郷町での職場体験のことについてお願いしたところ、快く引き受けていただいた。コロナの感染拡大状況により中止となったが、子どもたちは非常に楽しみにしていたので、令和5年度もよろしくお願ひしたい。セカンドスクールは子どもたちにも好評で、ぜひそのよさを各学校の先生方にも知ってもらいたいと思っている。仙教研（大曲仙北教育研究会）という研究団体があり、社会科部会に所属しているが、4月26日（水）には総会があるので、その際にセカンドスクールのパンフレット等配布できるものがあれば、各校に紹介できると思う。パンフレット等をもとに説明して各学校に配りたいと思うので御検討いただきたい。また、仙教研での秋の社会科研究発表会では、千畑小学校の児童が、埋蔵文化財センターでの体験をいかしての発表があり、とてもいい発表であった。そのようなことも含めて、埋蔵文化財センターでの活動をとおして、子どもたちにとっては非常にいい体験ができることや気づき、思い、ふるさとについての愛情を深めることに関してもいい活動になるので、来年度もよろしくお願ひしたい。
- 事業の内容についてはあまりにもたくさんあり、大変で忙しすぎるのではないかと感じた。埋蔵文化財センターには調査の他に研究という大きな目的もある。研究の時間もある程度確保できるような時間的余裕があってもいいのではないかと思う。事業を縮小しなくても、その中味を検討していけば多少研究に充てる時間がとれるかもしれない。ある程度研究の時間が確保できれば、職員のさらなる質の向上にもつながると思う。
- まもなく刊行予定の『土に聴け』について、カラー印刷だと土器や石器の質感がよく分かるのだ

が、モノクロ印刷の予定で残念だ。もし書籍にカラー印刷が反映できないのであれば、例えば魁新報社と連携し、デジタル化してカラーで見ることができるようにするか、または埋蔵文化財センターで画像を準備するようにするとさらにいいのではないか。

職員名簿

| | 職 名 | 氏 名 |
|---------|------------------------|---------|
| | 所長 | 磯 村 亨 |
| | 副所長 | 佐 藤 三 雄 |
| 総務班 | 副主幹（兼）班長 | 川 本 健太郎 |
| | 副主幹 | 高 橋 皇 司 |
| | 主任 | 皆 川 哲 |
| 調査班 | 副主幹（兼）班長 | 村 上 義 直 |
| | 学芸主事 | 鈴 木 裕 |
| | 学芸主事 | 赤 上 秀 人 |
| | （兼）文化財主査（本務：払田柵跡調査事務所） | 谷 地 薫 |
| | 文化財主査 | 高 橋 和 成 |
| | 文化財主任 | 赤 星 純 平 |
| | 文化財主事 | 小 山 美 紀 |
| | 文化財主事 | 小 松 和 平 |
| | 文化財主事 | 大 上 立 朗 |
| | 文化財主事 | 結 城 智 |
| 資料管理活用班 | 副主幹（兼）班長 | 吉 川 耕太郎 |
| | 学芸主事 | 柴 田 浩 一 |
| | 学芸主事 | 堀 川 昌 英 |
| | 文化財主任 | 乙 戸 崇 |
| 中央調査班 | 主任文化財専門員（兼）班長 | 袴 田 道 郎 |
| | 副主幹 | 小 松 恵美子 |
| | 副主幹 | 宇田川 浩 一 |
| | 学芸主事 | 櫻 庭 悦 央 |
| | 学芸主事 | 山 村 剛 |
| | 文化財主査 | 山 田 祐 子 |
| | 文化財主任 | 富 樫 那 美 |
| | 文化財主事 | 森 谷 康 平 |

秋田県埋蔵文化財センター年報41

令和4年度

発行 令和5年6月

秋田県埋蔵文化財センター

〒014-0802 大仙市払田字牛嶋20番地

電話 (0187) 69-3331

FAX (0187) 69-3330

URL <https://common3.pref.akita.lg.jp/maibun/>

